

特別



佐賀市吳服町

丸木屋吳服店

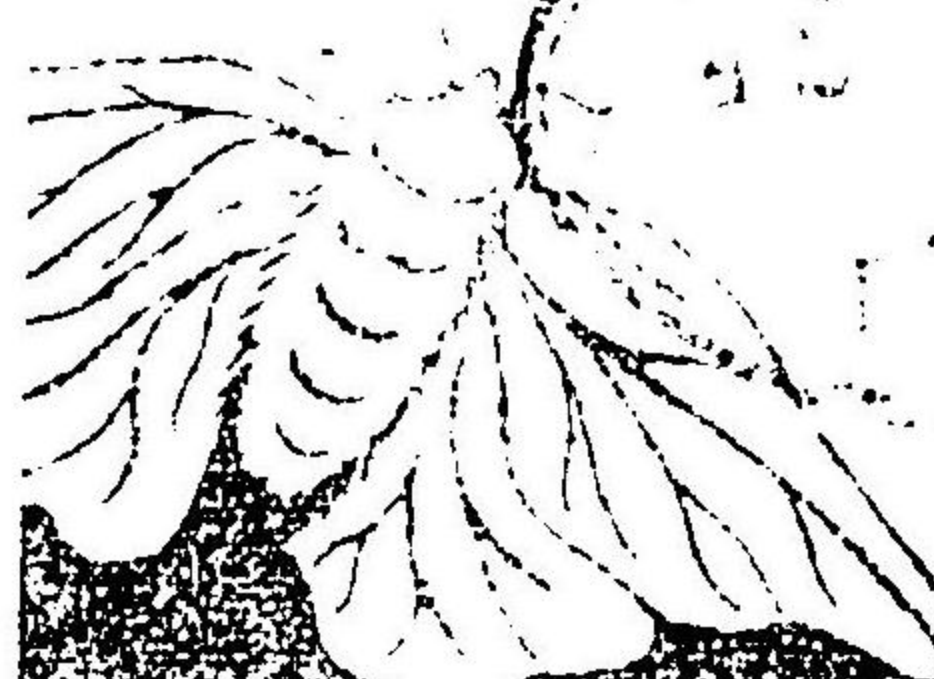
佐賀市吳服町

丸木屋分店

佐賀市吳服町

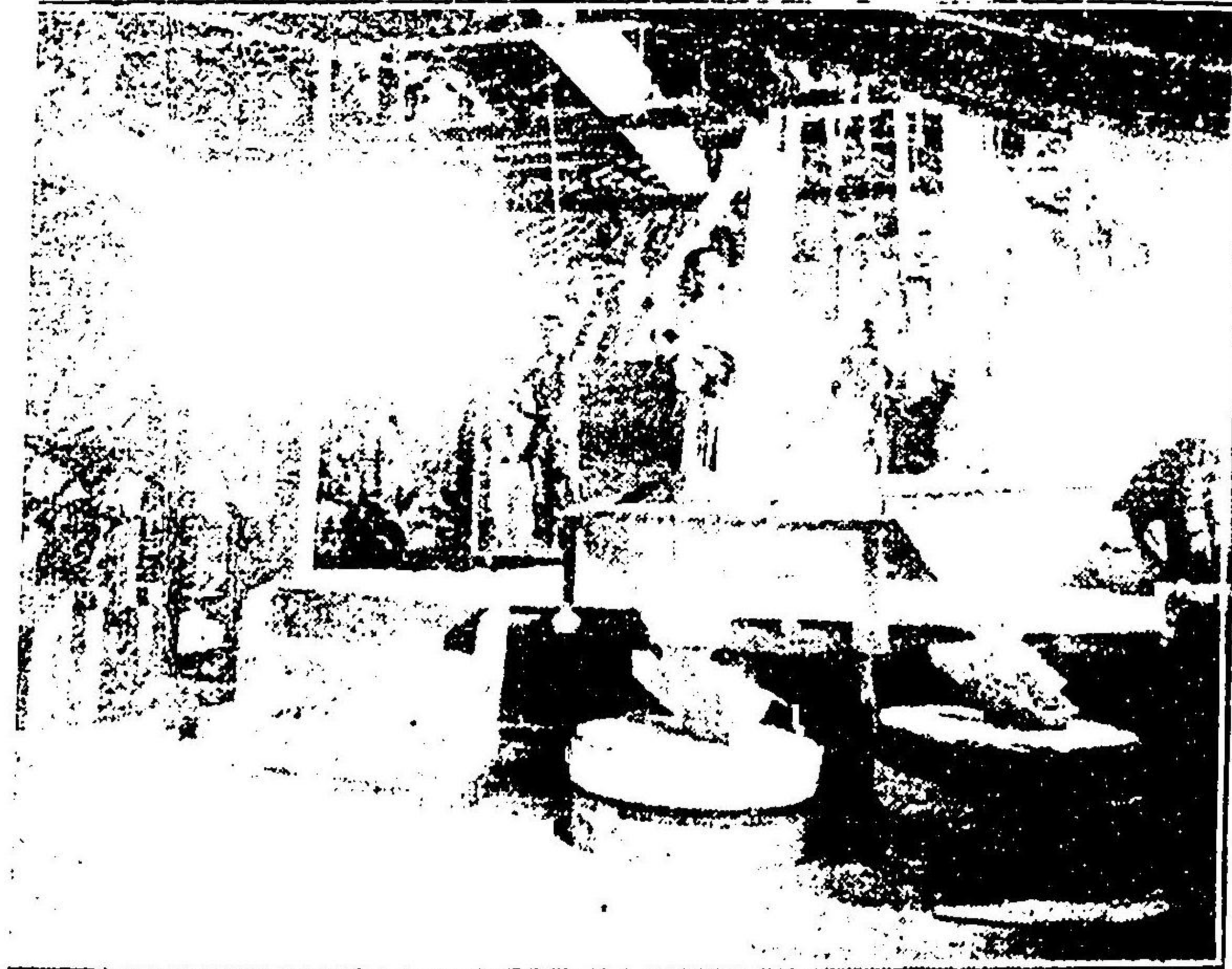
丸木屋雜貨店

電話三五九

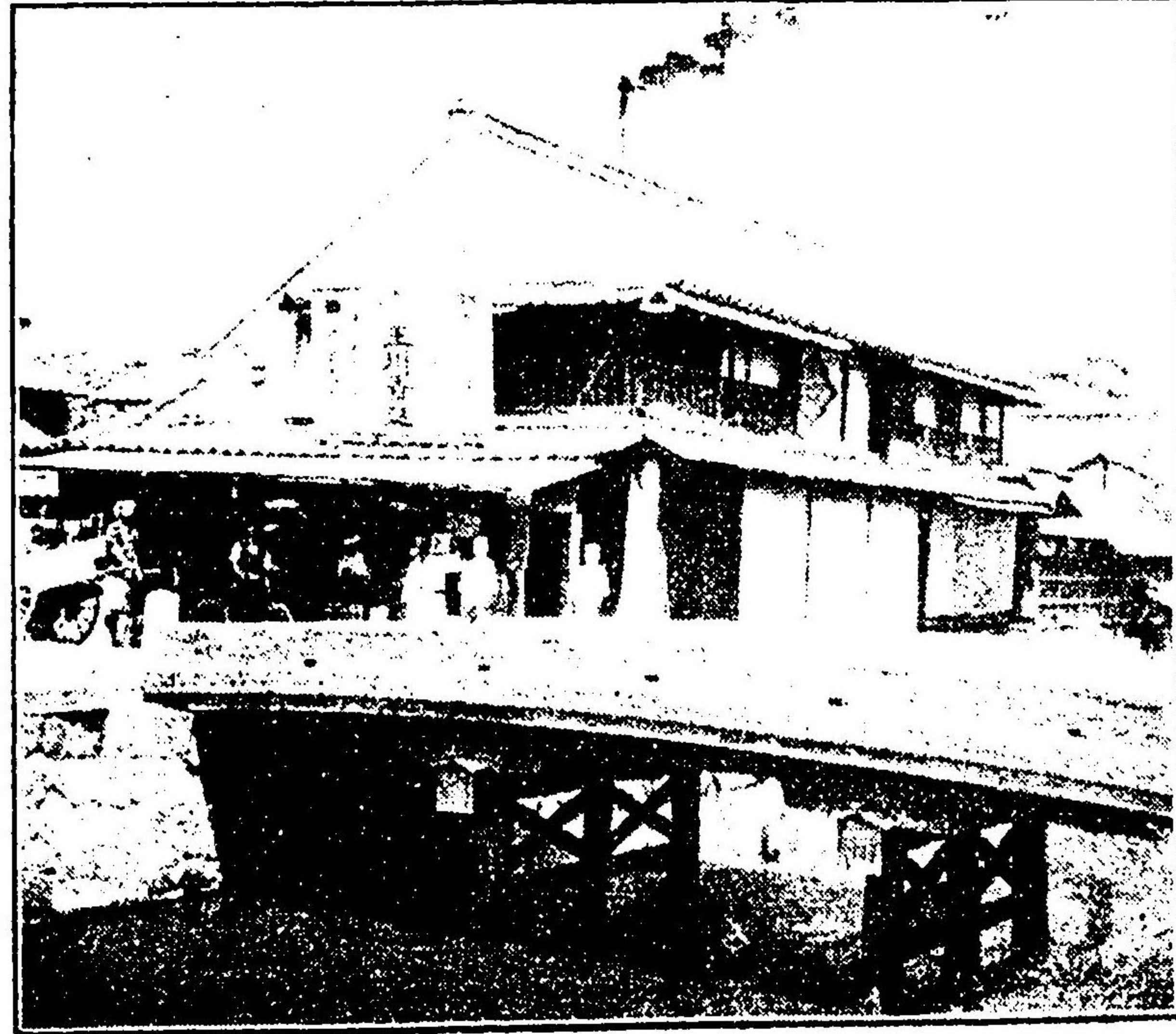




玉川製麵工場一期



(其 二)

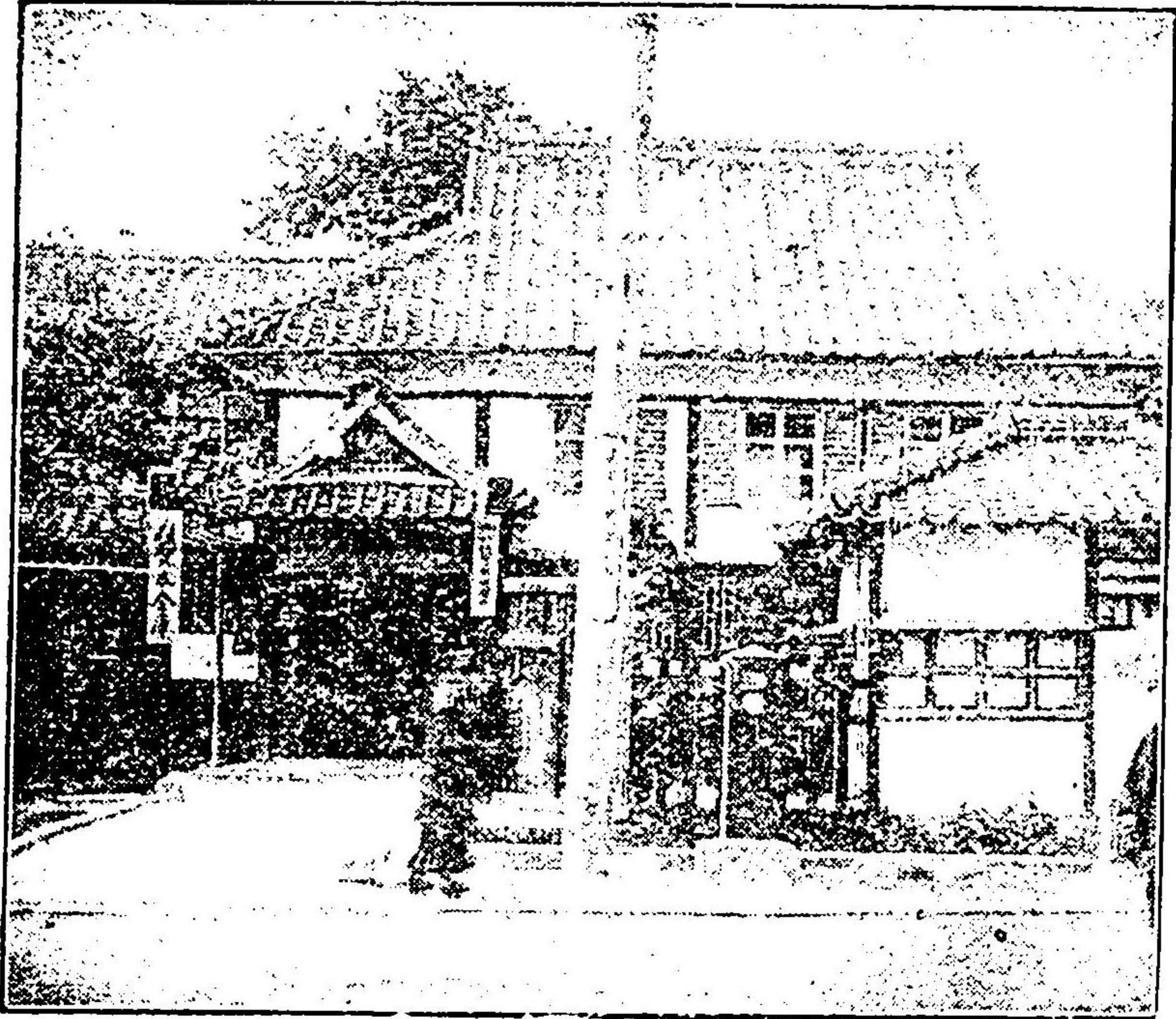


玉川製麵所



佐賀市岸川町

電話二百一十番



資本金六拾萬圓

佐賀市大字水ヶ江町



株式會社

佐賀百六銀行

電話特長 一〇六番

本金庫用 三〇六番

唐人町派出所
諸富出張所
鳥栖出張所

電話二〇六番



門互右治園大主店

般百輸運

嚙叮賽確

店本運佐 銜官詣 達用御

町火唐市賀佐 番九〇一話電長特



○電信、電話、電燈、避電針建設○室內電鈴
○教育用諸器械及標本類○蓄音機改造及新調
○電動機○電氣扇其他電線類○乾電池

佐賀市馬賣馬場二三

SN 乾電池製造元

佐賀器械製造所

所主 野口健藏

○石油發動機○發動機付唧筒及發動船
○新形消防兼井戸唧筒○新形消防唧筒製造修繕
○銑鐵及真鍮物鑄造○和洋菓子製造器機

標商錄登



醇良

佐賀市

旗崎

酒

店

電

三話

番



清酒

長瀬町

佐賀縣酒造株式會社釀造
純酒零賣元

頂上金賞等
酒清密
標



釀造元
佐賀縣杵島郡錦江村字高野
香月忠亮

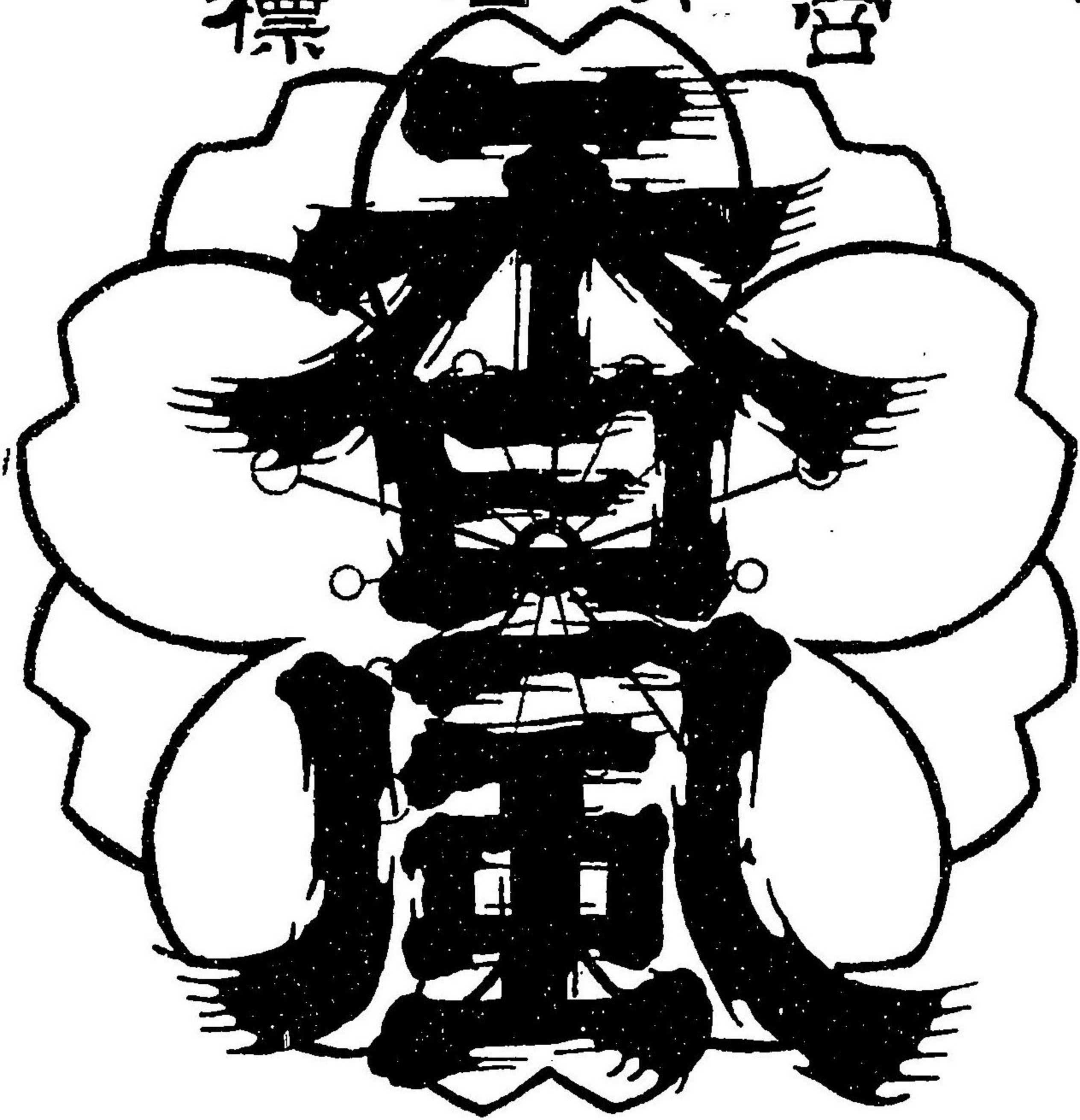
品質
精撰
誠意
確實

佐賀市唐人町

相原材木店

長電話 三六〇番

頂受牌金賞等壹
標酒清密



元造釀
學喜字村江錦郡島杵縣賀佐
亮忠月香

確誠精品
實意撰質

相原材木店

佐賀縣杵島郡江村字喜學

電話三六〇番

吳服

太物卸賣膏

系

山崎吳服店

佐賀市吳服町

電話百〇二番

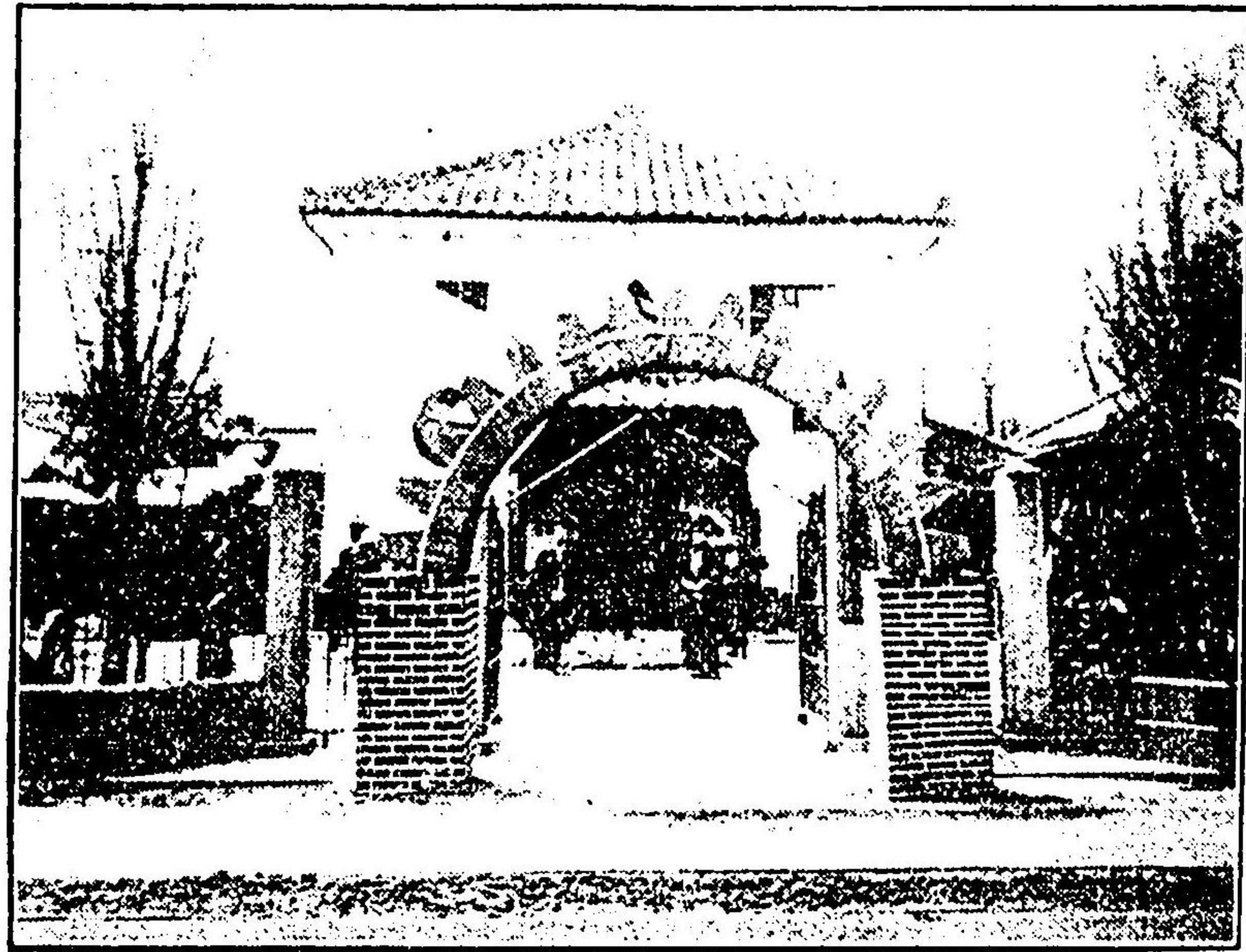
全町

内外綿糸膏

系

全糸店

電話架設中



佐賀商業會議所は松原町縣廳通に在り明治二十九年九月の設立に、リ爾來商工業の發展振張に就て努力し全三十七年現今の家屋に移轉せり同所は特許業者會、吳服太物商會、度量衡器營業者組合、醬油釀造業者組合、菓子商、染物業、廢物商、各組合及經濟協會等諸團體の事務所を同所内に設置し會議所事務の傍ら是等の事務を執り其他指物、文具硝子製靴其他諸團體の會合も成るべく同所にて開催せしめ商工業者之密接の關係を結び居れり同所の樓上には圖書室を設け一般の閱覽の用に供す一面醬油、酒、特許品、指物、製靴等の品評會を開設せしめ又は電燈會社其他會社諸團體の設立を援け及電話架設に就て功あり全所の事務は諸官廳及縣下商工業者の依頼に依り諸般の調査を爲して回答し博覽會共進會出品の獎勵解說書の依頼に應じ或は紹介添書商品販路の擴張に就き盡力し一面會議に關する事務並に事務及諸統計報告書及商工人名錄の發刊及金融、商況、物價勞銀の調査を爲して報告し或は諸官廳の諮問に應じ又は必要に依り時機に臨み商工業上に關し意見を陳し建議書を提出し市問題、縣下の問題國家の問題に關し貢獻しつゝ、あり事務逐年増加の狀況を呈し居れり

佐賀商業會議所

內外
書籍商

確實勉強
懇切丁寧

佐賀市白山町

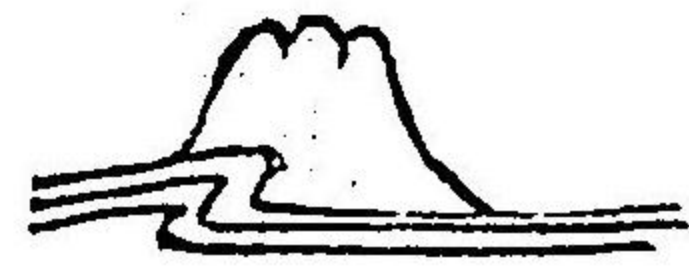
書肆汲古堂

河內壯助

電話 百四拾七番
振替貯金口座六五〇五番

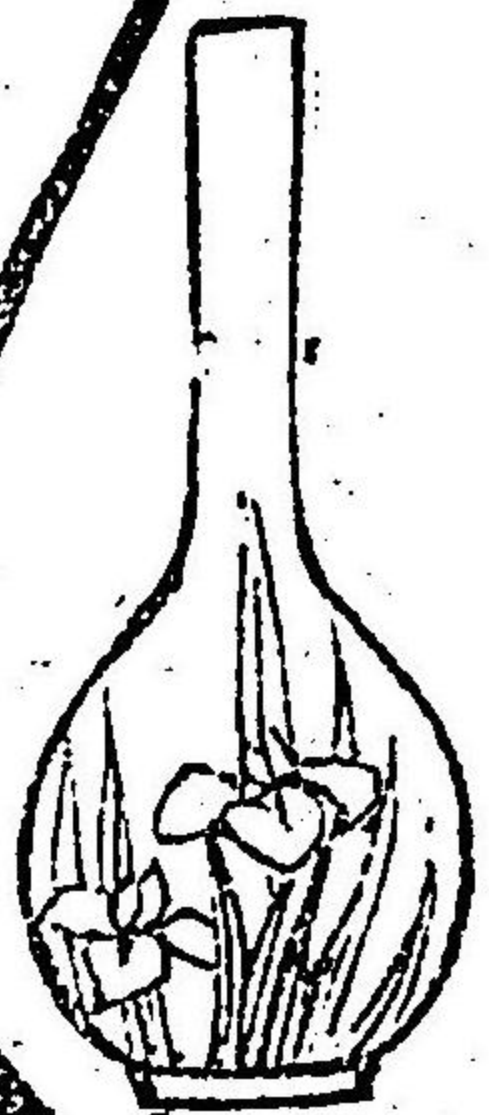
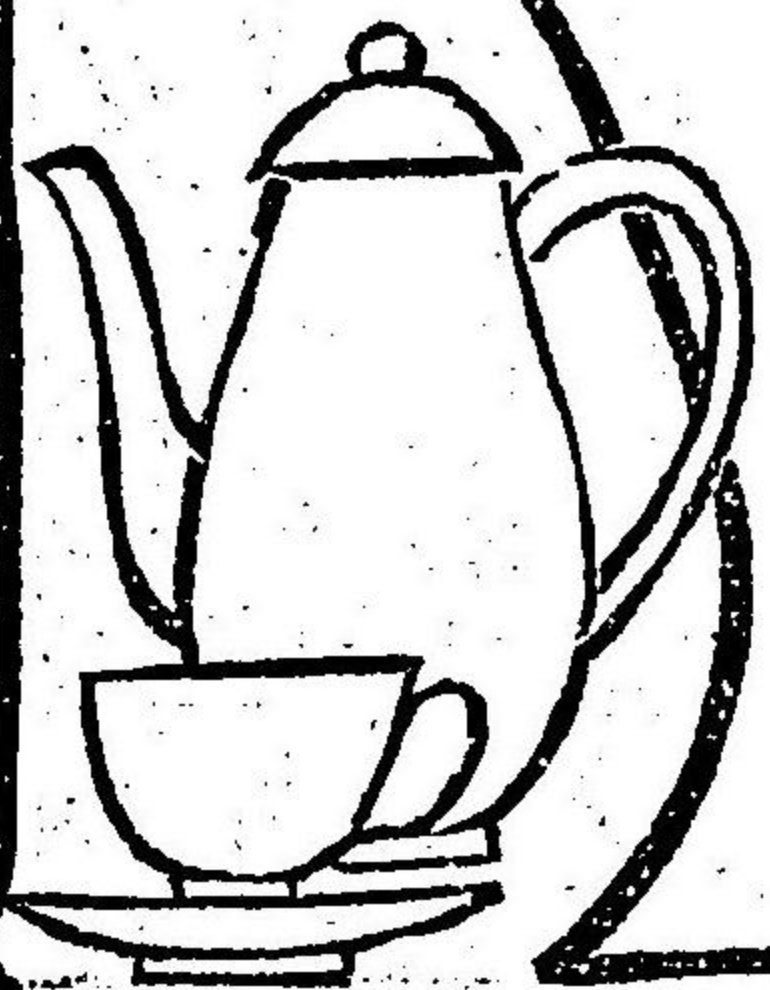
肥前
名産

有田磁器



佐賀市馬貫馬場
櫛子橋

深川出張店





紙一式文具表用品

卸 ㊦ 商

佐賀市白山町

永池本店

電話百五十一番

久留米市庄島町

永池支店

清國大連市伊勢町

永池支店

○山葉製オールガン九州一手特約販賣○
○鈴木製ヴァイオリン

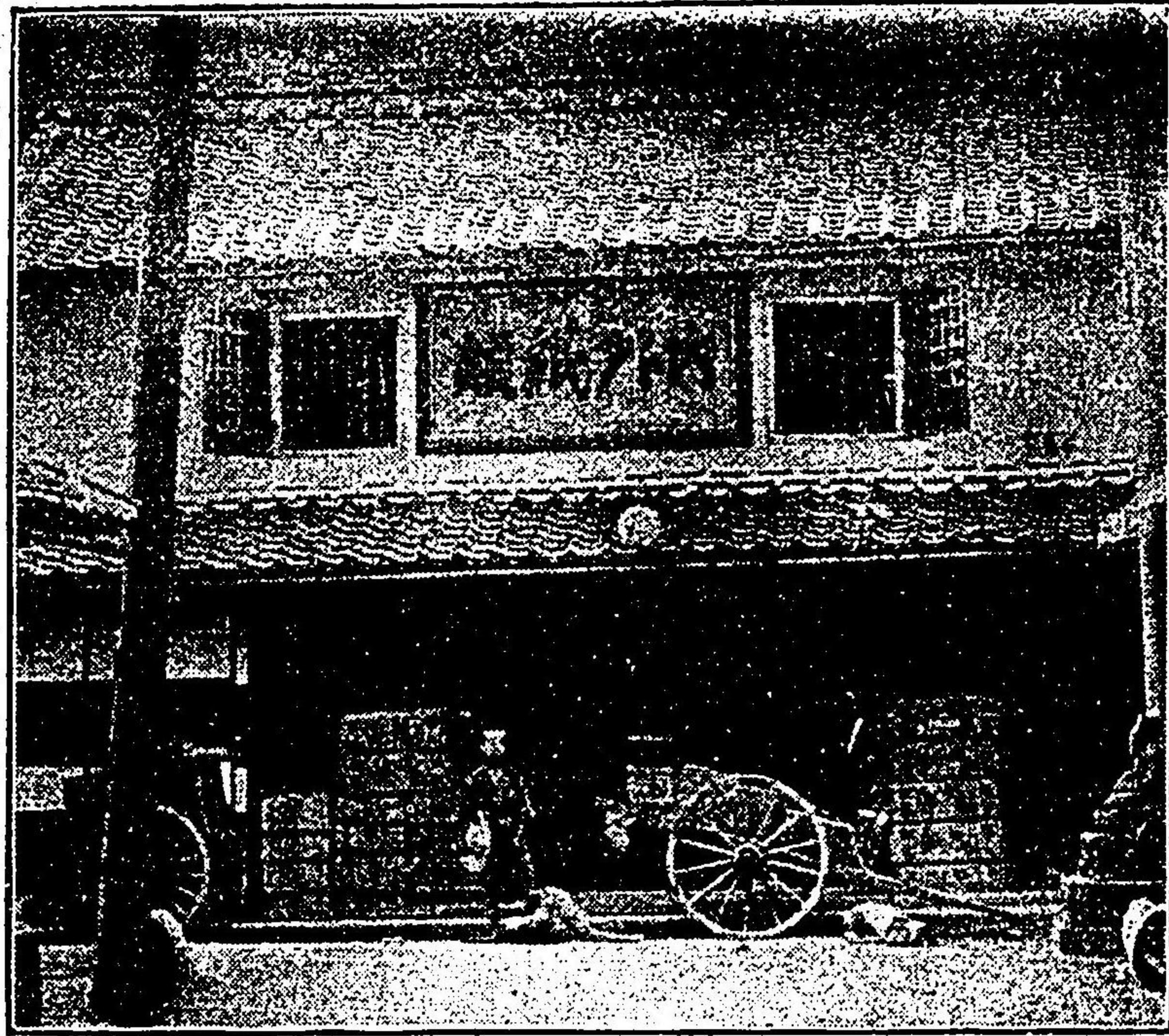
佐賀市

書籍
樂器
文房具

商 牧川書店

白山町

○各中等學校女學校教科書販賣○



紙一式文具表用品

卸 商

佐賀市白山町

永池本店

電話百五十一番

久留米市庄島町

永池支店

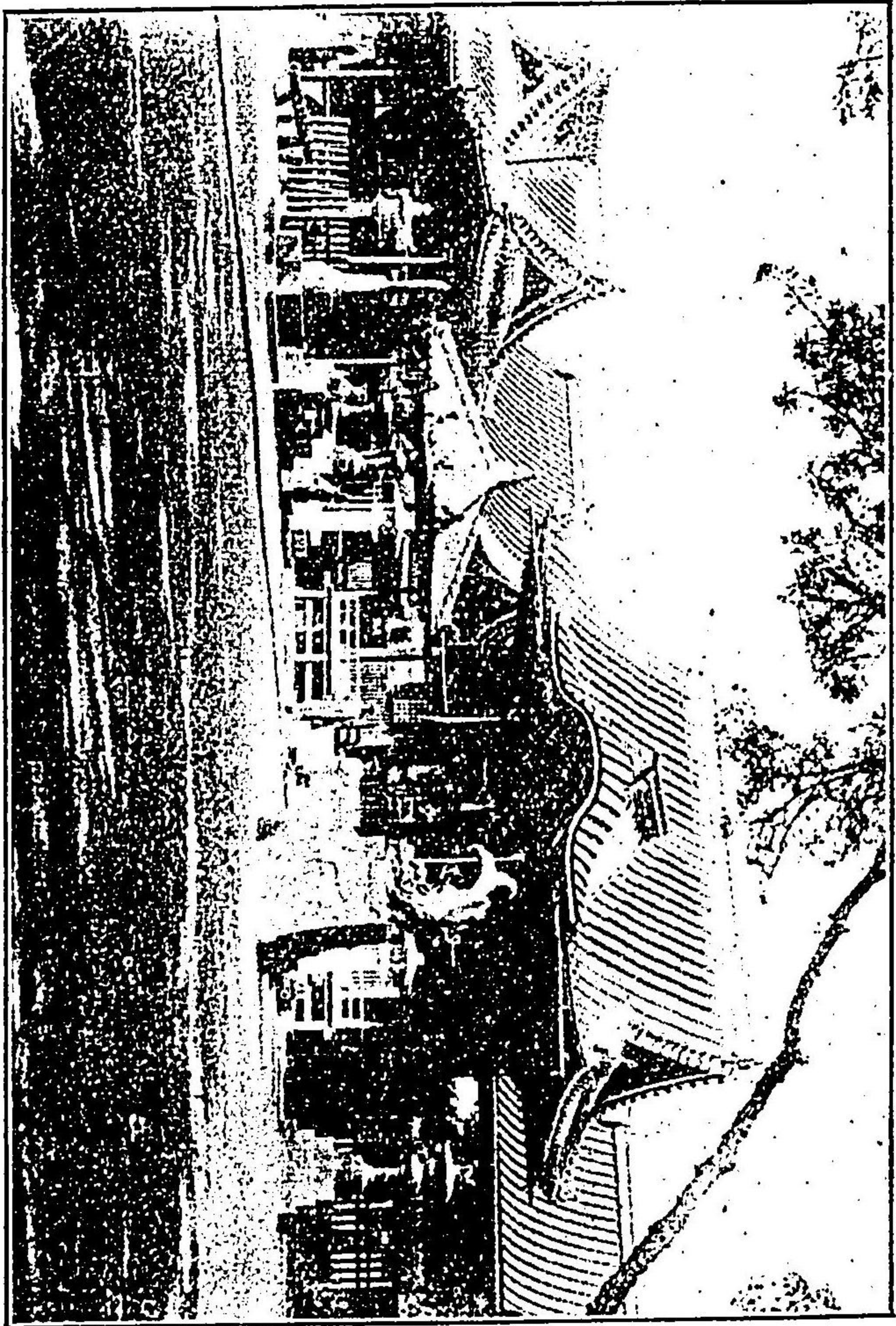
清國大連市伊勢町

永池支店

佐賀案内目次

- ◎ 口 繪
- 佐賀市街地圖
- 松原神社
- 全神苑(一、二)
- 招魂社
- 與賀神社
- 佐賀舊城門
- 佐賀城舊書院
- 江藤新平の碑
- 神野の御茶屋(一、二)
- 願正寺
- やな及川上の景
- 石井樋の景
- 春日山の御墓所
- 佐賀縣廳
- 縣會議事堂

- 五十五聯隊落成式の景
 - 縣立病院好生館
 - 白山町の全景
 - 新馬場通りの景
 - 室園遊廓
 - ◎ はしがき序文
 - ◎ 名所古跡
 - 佐賀の稱呼の來歴
 - 佐賀市の成立
 - 松原神社
 - 全 神苑
 - 名主鍋島閑叟公
 - 招魂社
 - 征韓憂國黨碑
 - 楠神社
 - 與賀神社
- 一
二
三
八
九
二
四
五
六
七

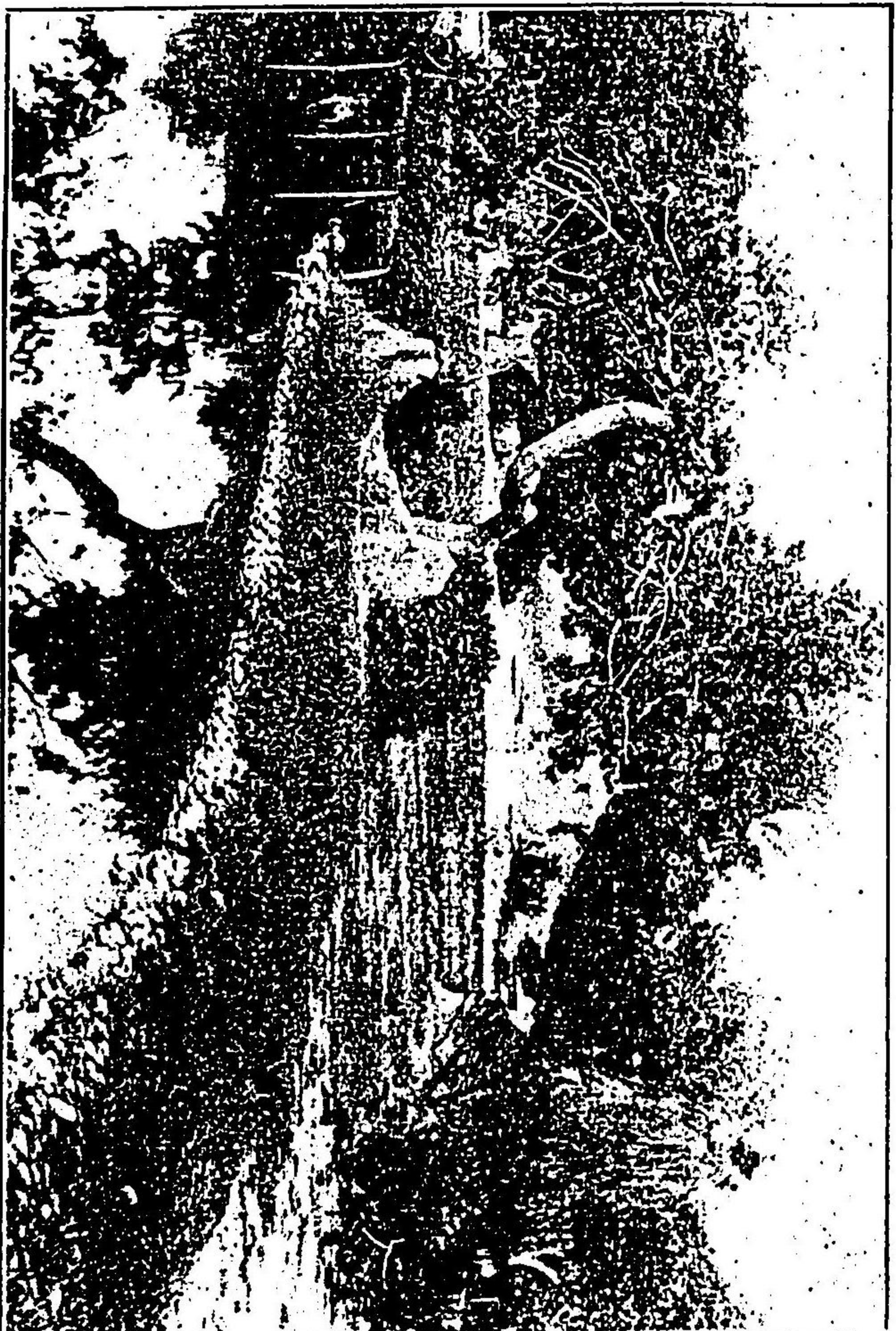


- ◎八幡社
- ◎伊勢屋町大神宮
- ◎牛島天満宮
- ◎佐賀城の今昔
- ◎名代の江藤新平
- ◎お堀端の清香
- ◎高寺の鐘聲
- ◎多布施河畔の松籟
- ◎神野御茶屋
- ◎弘道館
- ◎乾亭院
- ◎願正寺
- ◎稱念寺
- ◎本行寺
- ◎宗龍寺
- ◎龍泰寺
- ◎高傳禪寺
- ◎法勝寺

一八八
一九九
二〇九
二一七
二二五
二二八
二二九
三〇二
三二二
三三三
三三三
三三三
三三三
三三三
三三三
三三三
三三三
三五五

- ◎川上の絶勝
- ◎川上の鮎
- ◎川上の古戦場
- ◎縣社淀姫神社
- ◎實相院
- ◎川上の御茶屋
- ◎春日山の墓所
- ◎金立山
- ◎鬼岩屋
- ◎佐賀方言と普通語
との對照
- ◎名物案内
- ◎佐賀の商業
- ◎商工家紹介
- ◎附録(商工人名録)

三八
四〇
四一
四二
四二
四四
四四
四四
四六
四八
四九
五一
六一
六七
七三
七五



(一其) 苑神社原松



全 上 共 (二)

貴婦人用高等小間物
舶來雜貨各種化粧品

確利

佐賀市八丁馬場

實主

友田洋物店

電話 二二三番

義

門司市西本町二丁目郵便局前

支店 友田洋品店

長電 三六六番

各國時計卸小賣

並三貴金屬美術品

指輪、金銀盃、其他貴金屬品

御好に應じ製作可仕候

佐賀市白山町

浦原時計店

電話 百二十八番

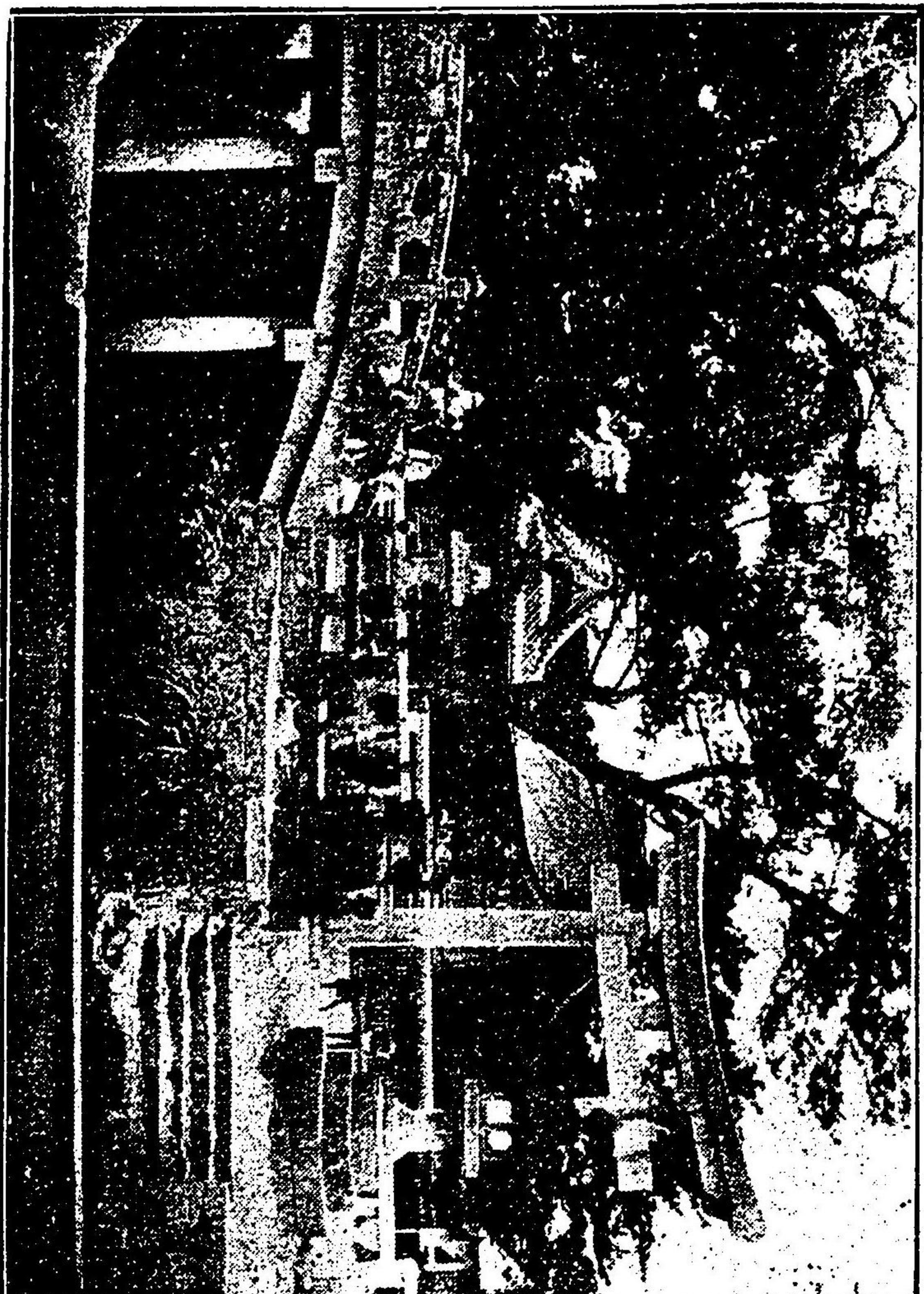
支店所在地

佐世保 筑前直方

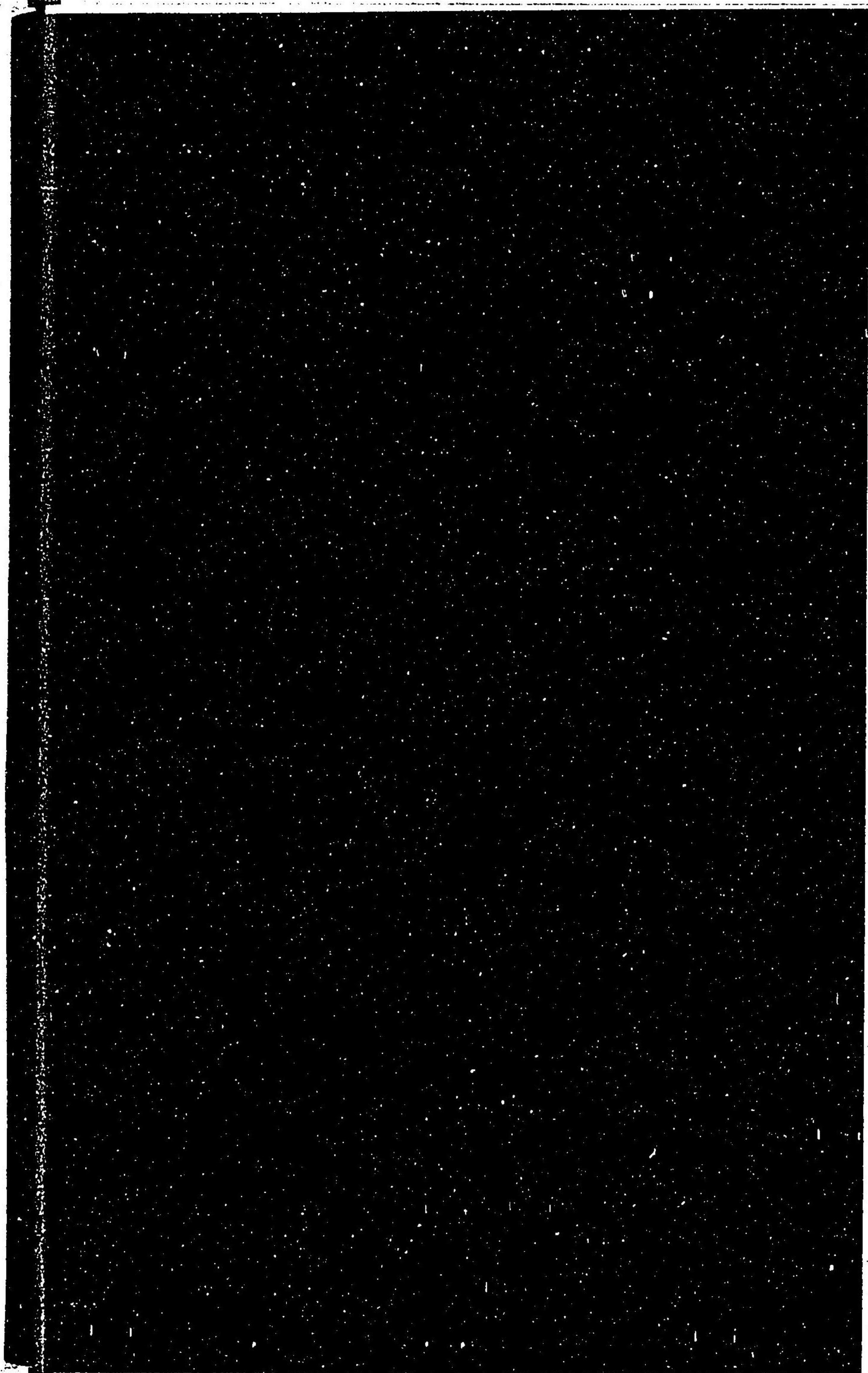
長崎 久留米



招魂社の日

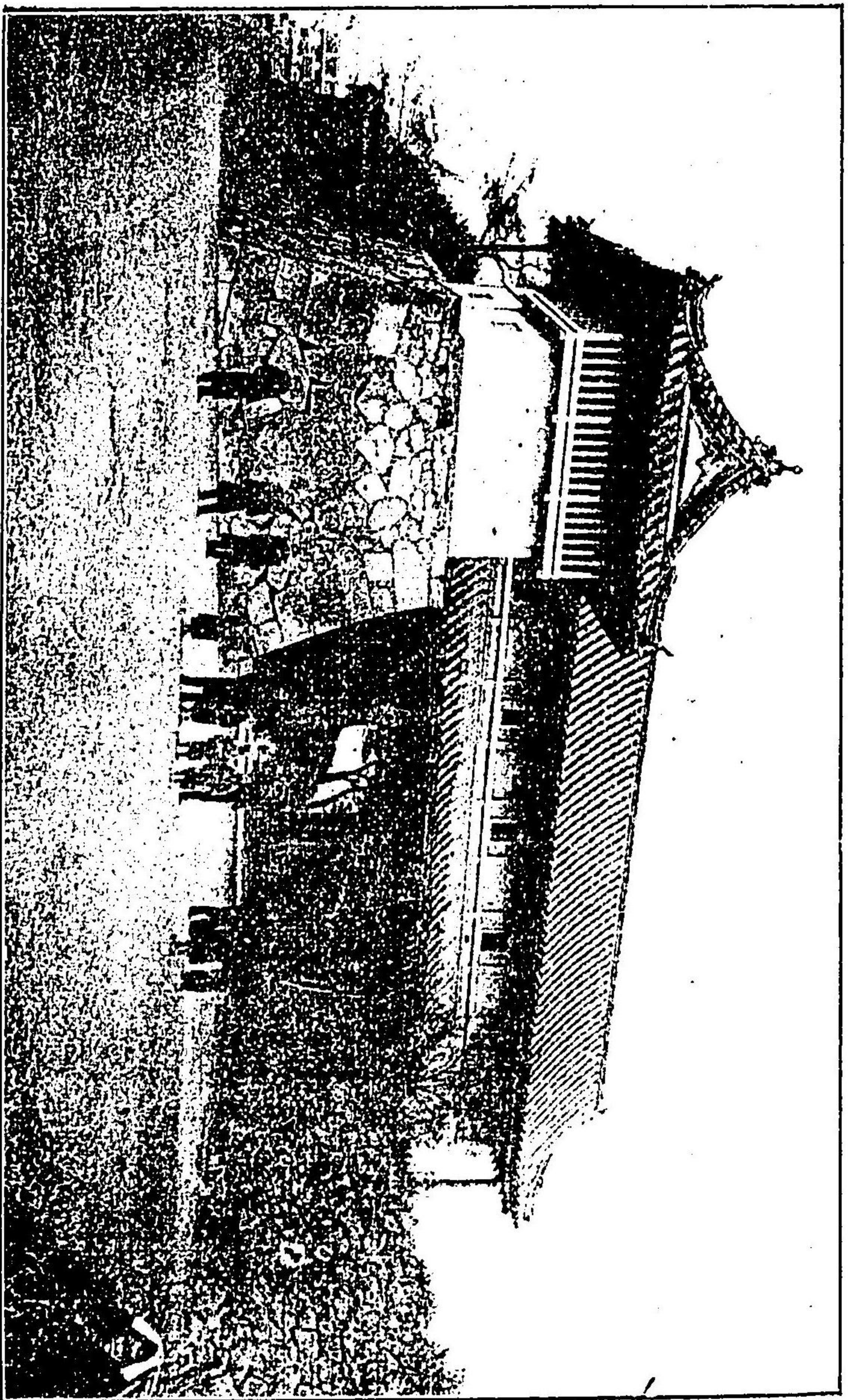


招 魂 社 の 景





奥賀神社の景



景の門城舊賀佐



佐賀城舊書院

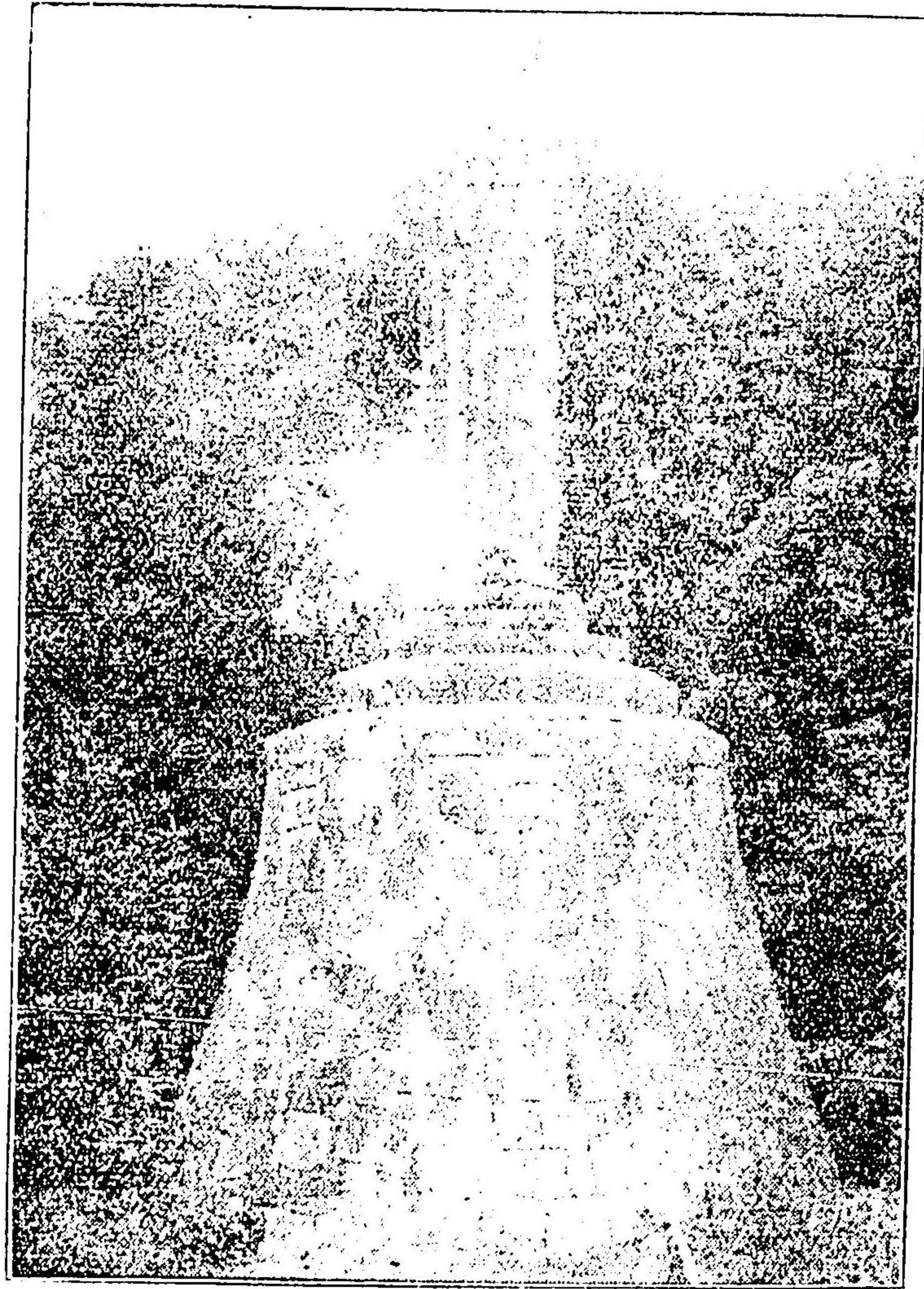
北海物産練粕
大豆粕

直輸入

佐賀市唐人町

彌富肥料商店

電話長 (四三〇番)



江 藤 新 平 の 碑

強壯

からだ
つよめの
大關

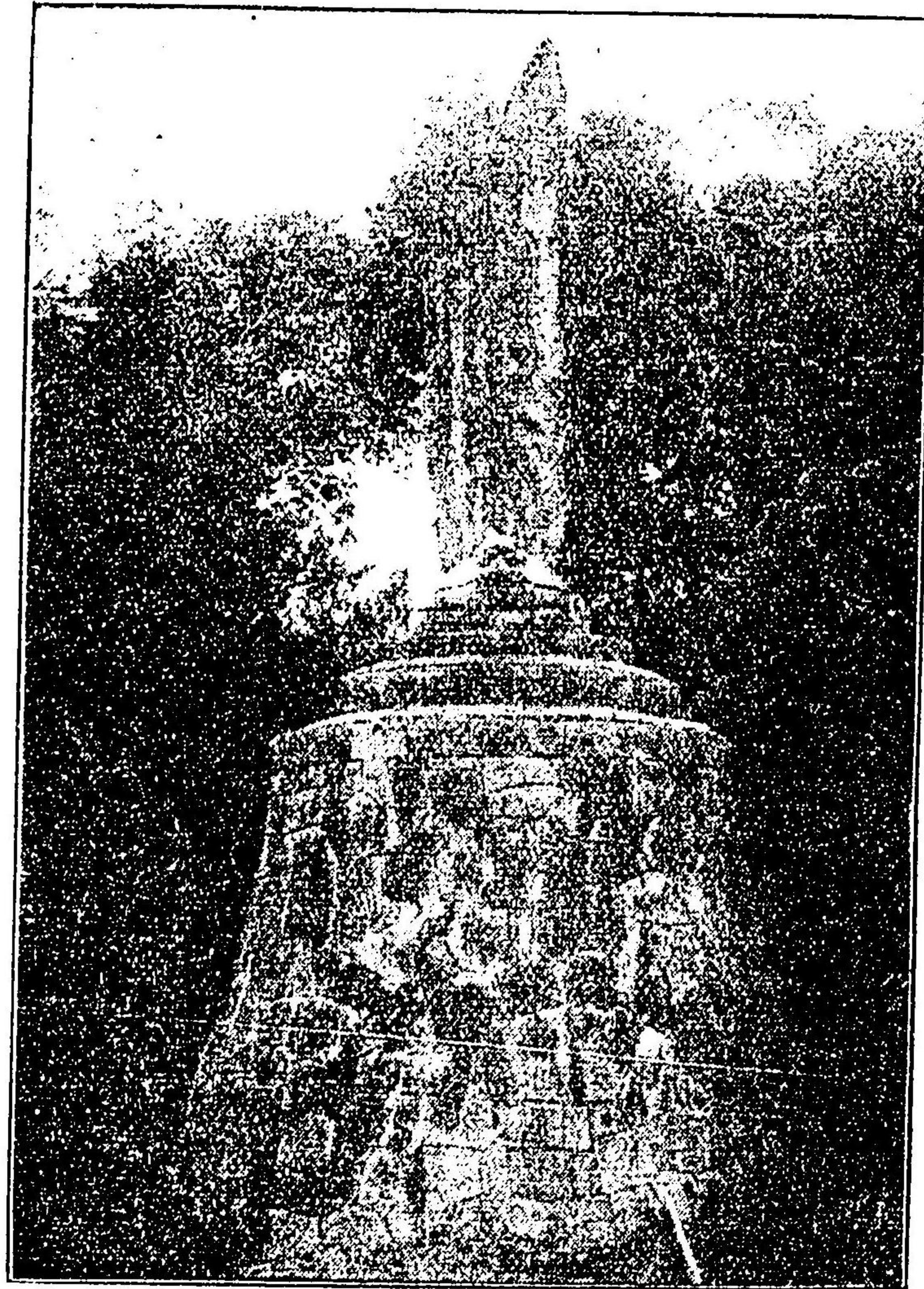
榮盛五臟圓

荒木榮盛堂謹製
佐賀市白山町

興奮

整腸

増血



江藤新平の碑

強壯

からだ
つよめの
大關

増血

榮盛五臟圓

荒木榮盛堂謹製

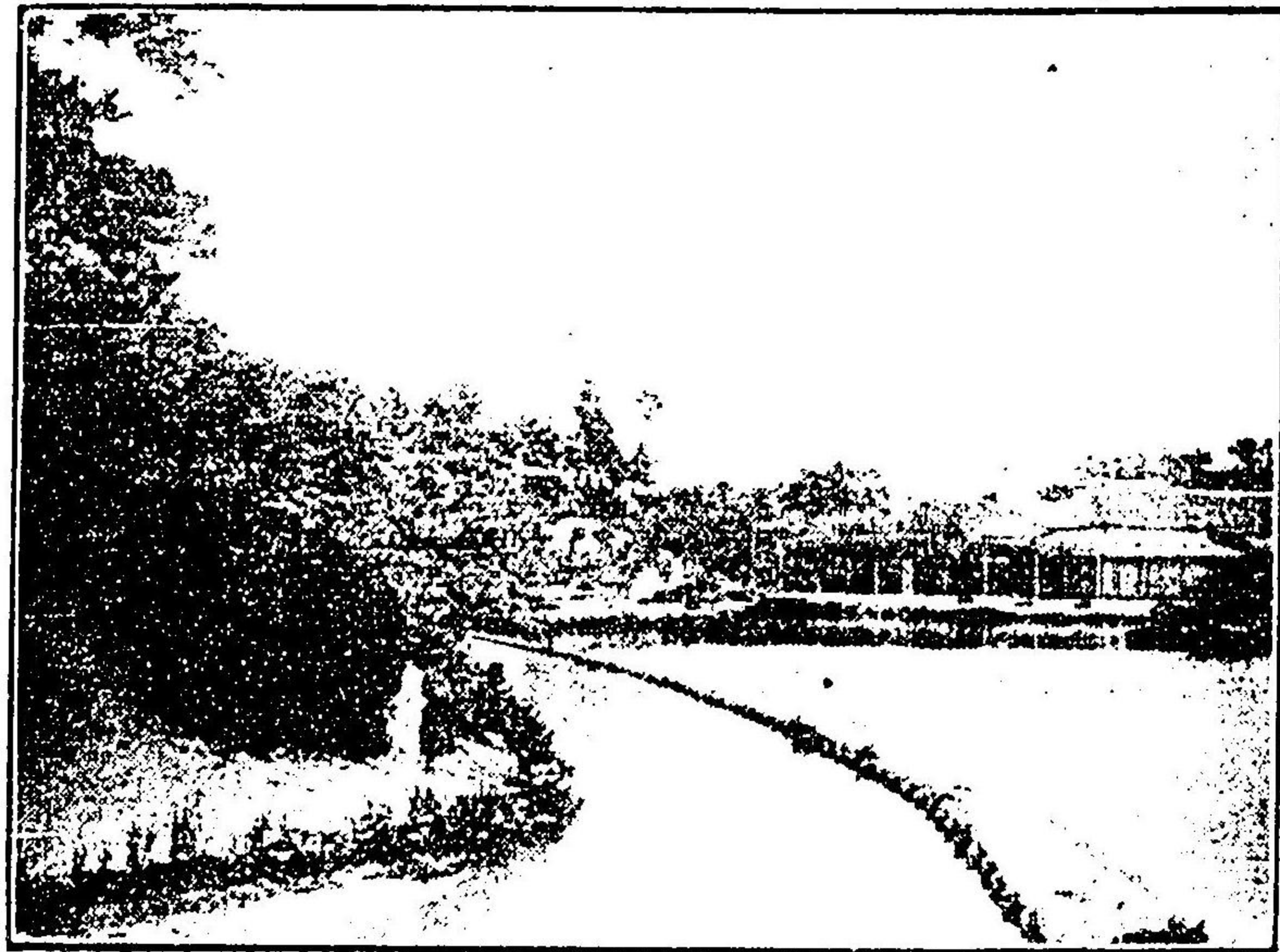
佐賀市白山町

興奮

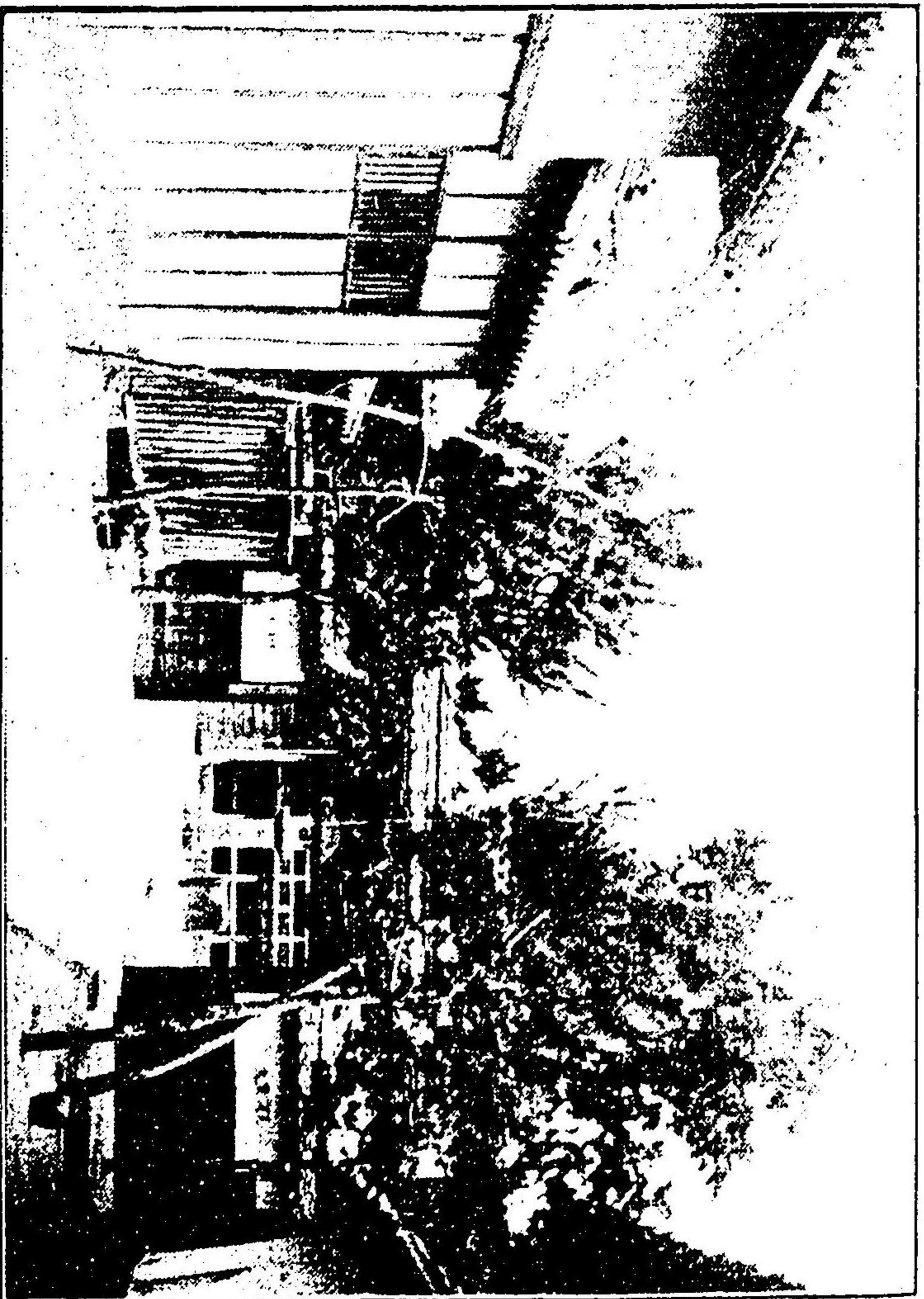
整腸



(一其)屋茶御の野神

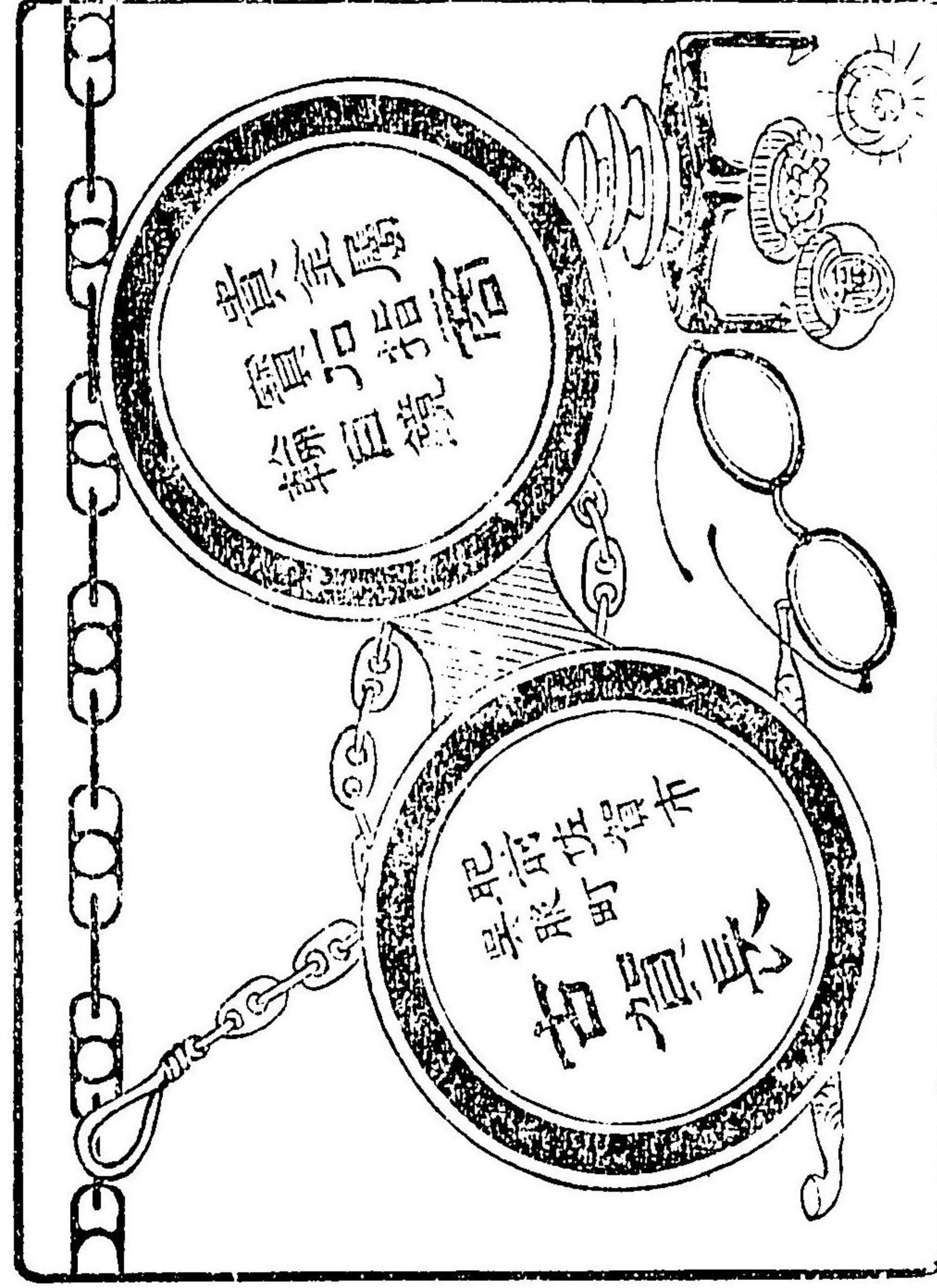


(二其)屋茶御の野神



願正寺の景

美 優 選 精



價 廉 實 確

營業項目

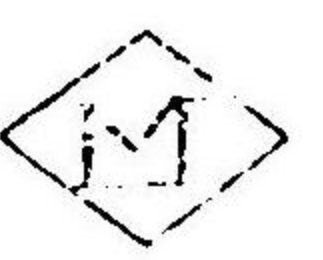
- 一銃劍術用防具 並ニ新式木銃タンポ
- 一軍刀術用防具 並ニ竹刀附屬品
- 一擊劍術用道具 並ニ竹刀附屬品
- 一柔術用稽古衣 並ニ長短猿股帶
- 一各學校普通体操用器具一式
- 一全上兵式体操用背囊 並ニ革具指揮刀一式
- 一全上運動用器具一式
- フットボールローンテニス用ラケット並ニボール
- ベースボール用ミットグローブ各種
- 前ノ記物品修理等要ズル節ハ成可安値ニ叮嚀ヲ主トシ御受負可仕候也

裁縫部

諸官衙各學校窓掛並ニ卓掛板張敷物ノ類一式受負
 夏各シヤツズホン下運動用シヤツ各種

陸軍御用達
 諸官署
 各學校御用達

佐賀市水ヶ江町片田江通
 私立龍谷中學校北側



森

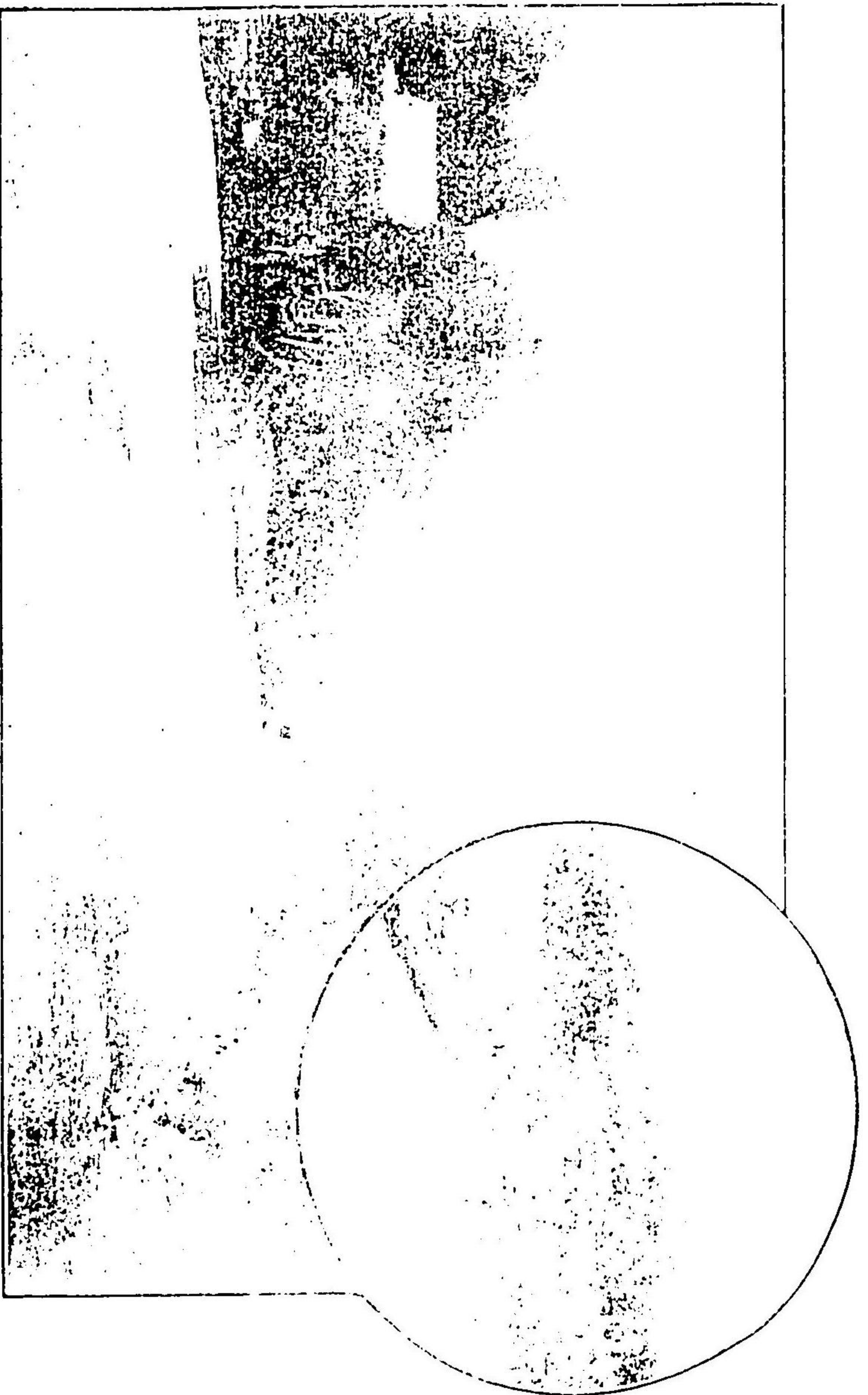
主任 森

商

誠

店

(電話) 〇七



景の上川及びなや

營業項目

- 一銃劍術用防具 並ニ新式木銃タンポ
- 一軍刀術用防具 並ニ竹刀附屬品
- 一擊劍術用道具 並ニ竹刀附屬品
- 一柔術用稽古衣 並ニ長短猿股帶
- 一各學校普通体操用器具一式
- 一全上兵式体操用背囊
- 一全上運動用器具一式
- 並ニ革具指揮刀一式
- フットボールローンテニス用ラケット並ニボール
- ベ이스ボール用ミットグローブ各種
- 前ノ記物品修理等要ズル節ハ成可安値ニ可啻ヲ主トシ御受負可仕候也

裁縫部

諸官衙各學校窓掛並ニ卓掛板張敷物ノ類一式受負
 各學校生正服並ニ絨外套廉價調進
 夏各シャツズホン下運動用シャツ各種

陸軍御用達
 諸官署
 各學校御用達



佐賀市水ヶ江町片田江通
 私立龍谷中學校北側

森 商 店
 主任 森 誠 輔

(電話架設中)



景の上川び及なや

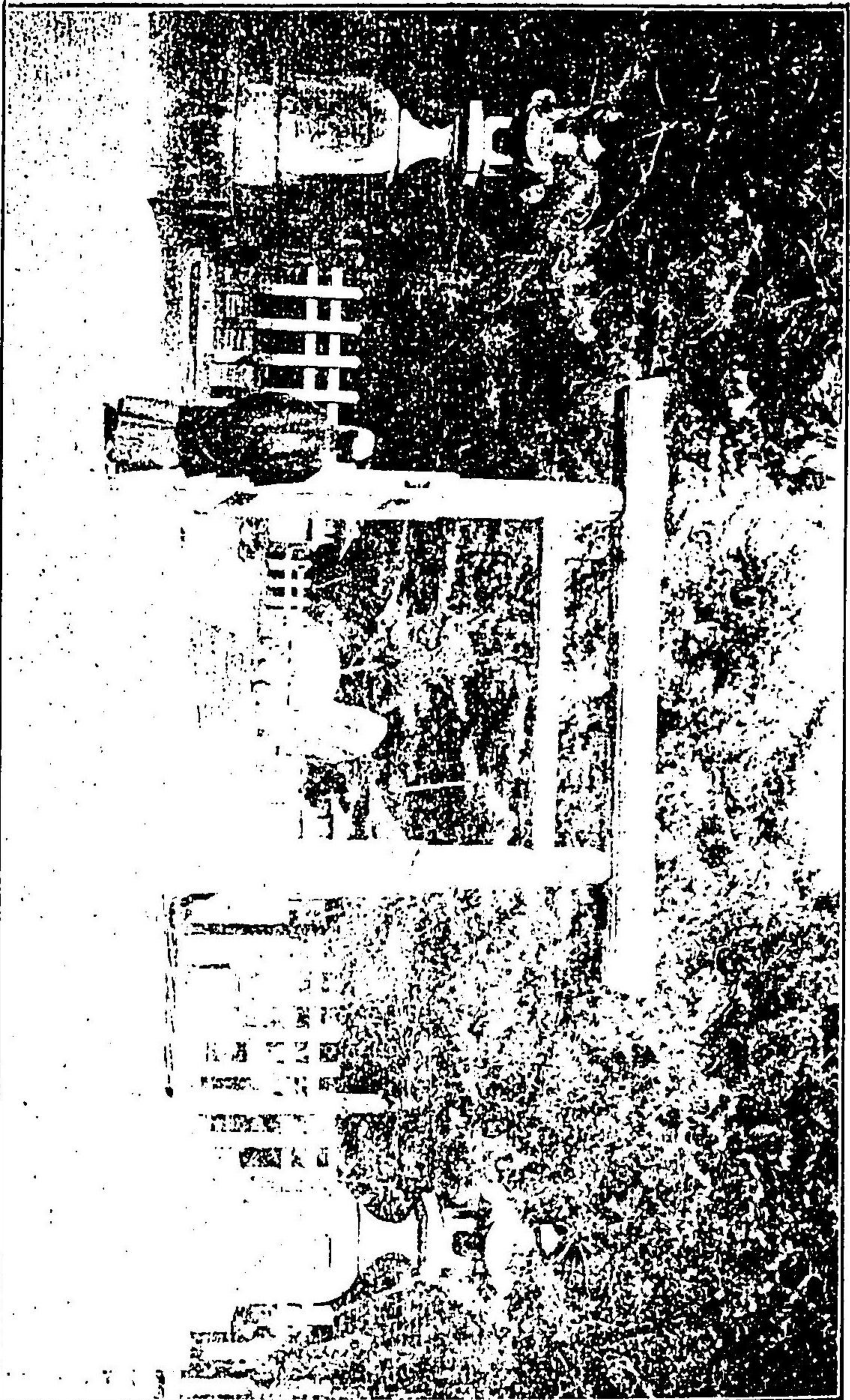


景の上川が及なや



景の樋井石及び碑の安茂庫兵衛成

川上川の流多布施川に岐る、所、即石井樋、是佐賀の水源
地、象鼻天狗鼻、天巧を補ひ、水利妙を極む、成富茂安元和
年間に築く、水功紀念碑の影水く河水に漂ふ



所 墓 御 の 山 日 春

營業目次

帝國製糸株式會社製品佐賀縣一手販賣

加富登麥酒株式會社製品佐賀縣一手販賣

官製煙草元賣捌

官製鹽元賣捌

小城郡小城町

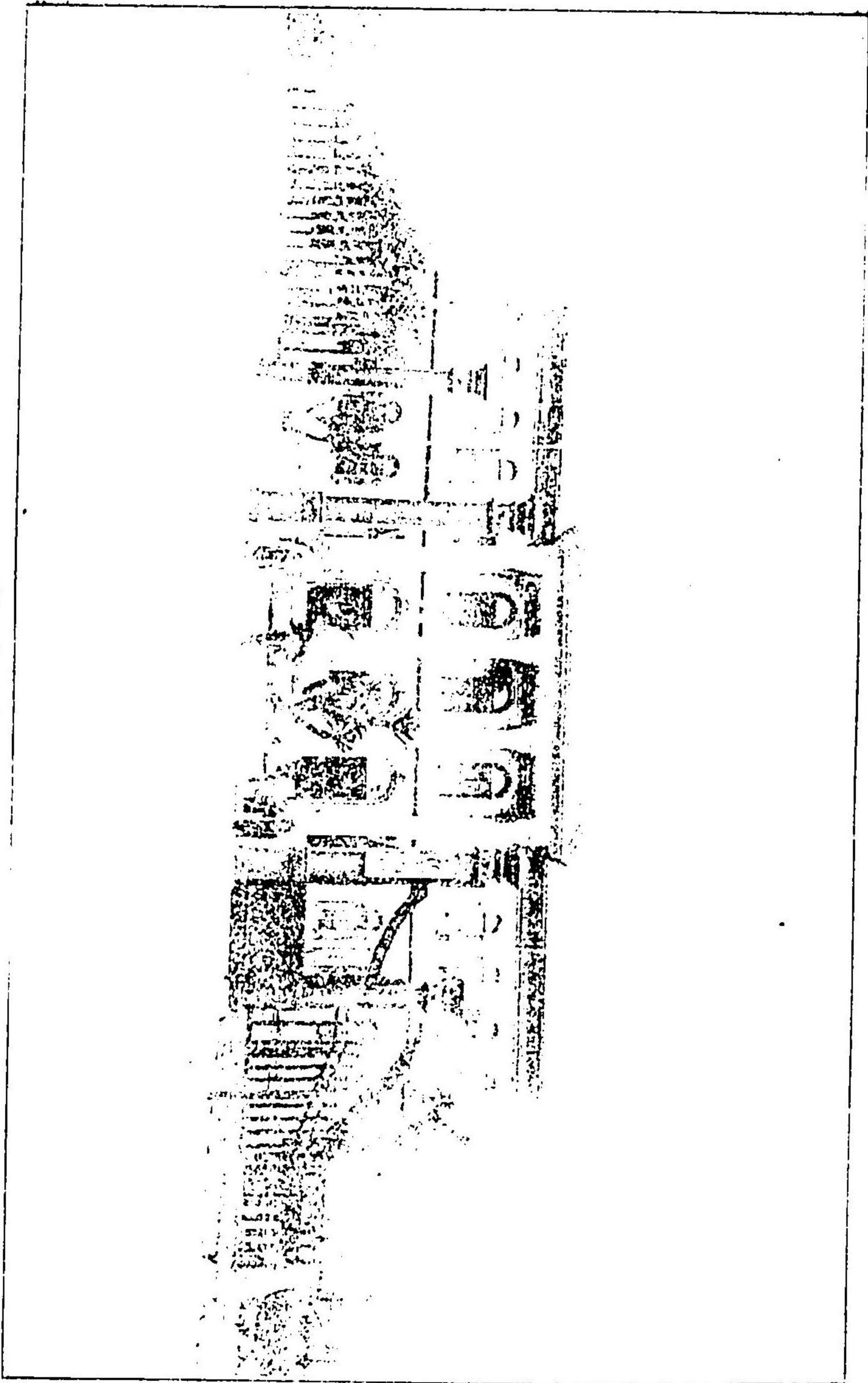
野村本店

器電力ネ七

佐賀市白山町

全支店

電話一五二番乙



精製膏藥卸入無煙燭

各病院
請大醫
夏方調劑所

西村救命藥舖

主任者

藥學博士 電川秀一

佐賀市水々五丁目

海濱救急藥舖

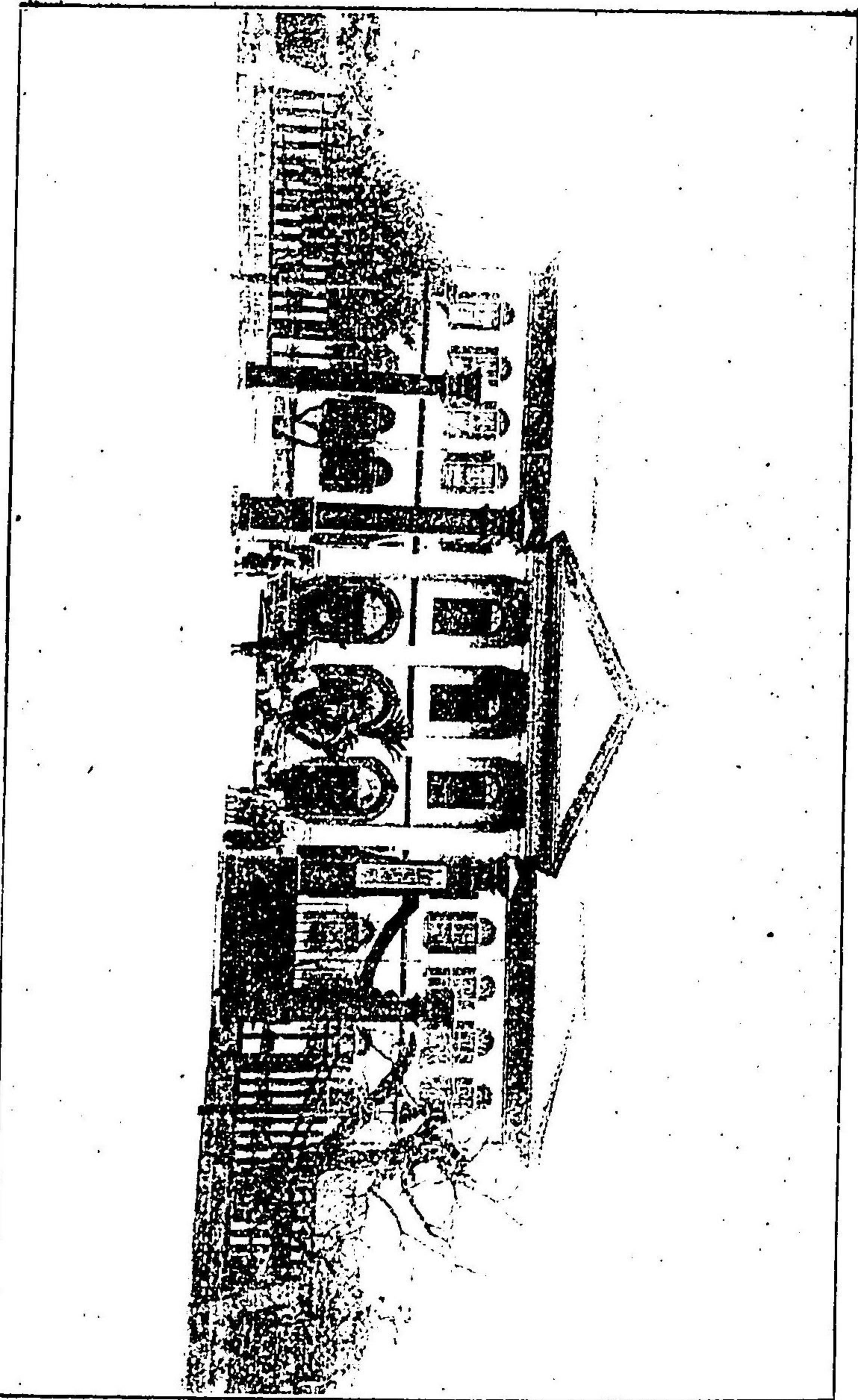
各病院
諸大醫
夏之調劑所

西村救命藥舖

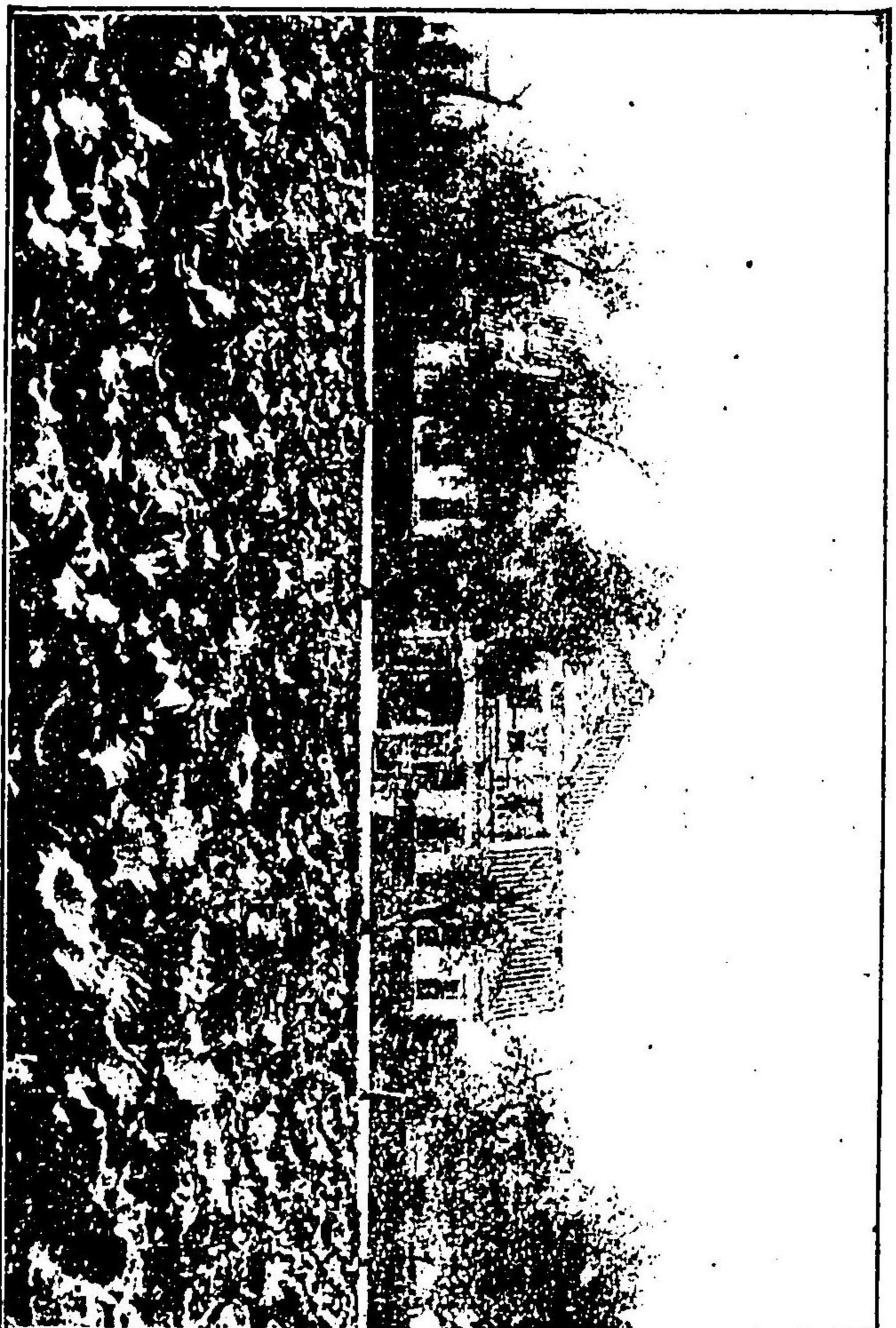
主任者

藥師業野島川秀一

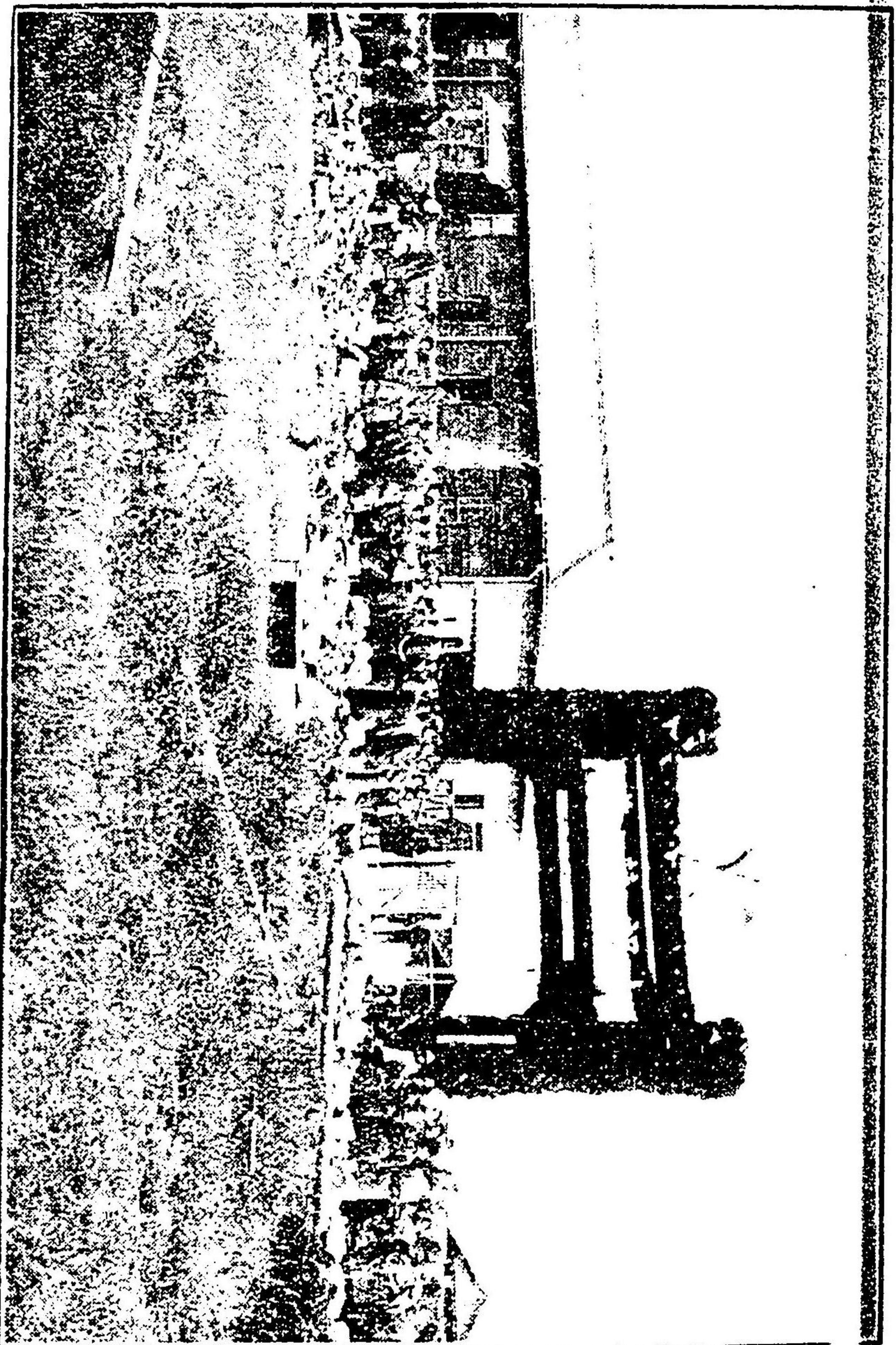
佐賀市水ヶ坂町



佐賀縣廳



縣 會 議 事 堂



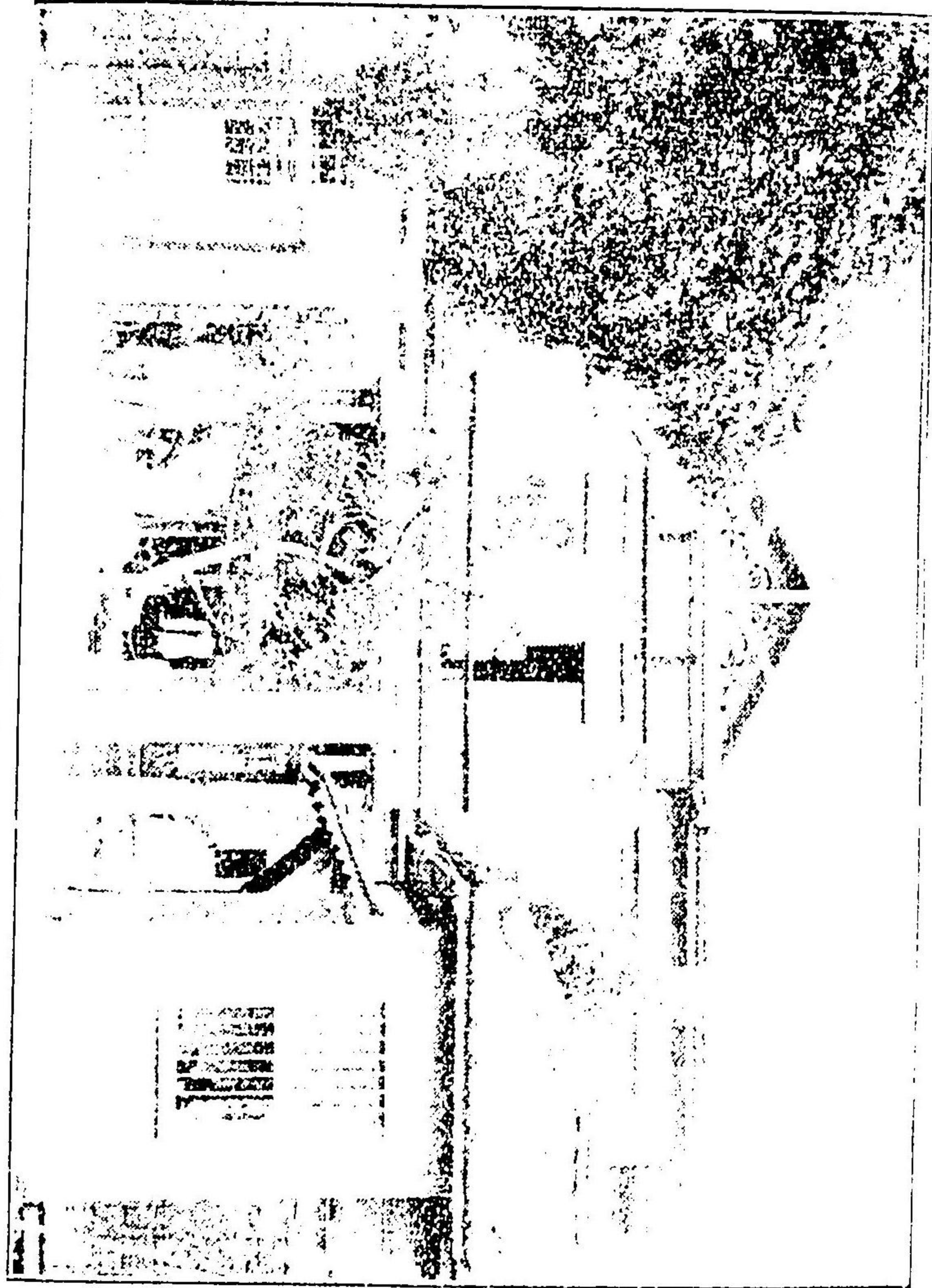
景の式成落隊聯五十五

各地名產
陶器賣商

佐賀市新馬場

△ 中原商店

佐賀醬油



佐賀醬油製造合資會社

八重	海花	松の緑	佐星	高砂	菊壽
全	全	全	全	全	佐賀市
古川	宮地	松本嘉次郎	佐賀醬油製造合資會社	高岸	古澤和平太
八戸町	水ヶ江町	紺屋町	唐人町	長瀬町	高木町
猪八	甚六	電話 三四〇番	電話 二〇三番	武平	電話 三〇五番

佐賀醬油

菊壽

佐賀市高木町

古澤和平太

電話 三〇五番

高砂

全

高岸武平

長瀬町

唐人町

佐星

全

佐賀醬油製造合資會社

電話 二〇三番

松の緑

全

松本嘉次郎

紺屋町

電話 三四〇番

海花

全

宮地甚六

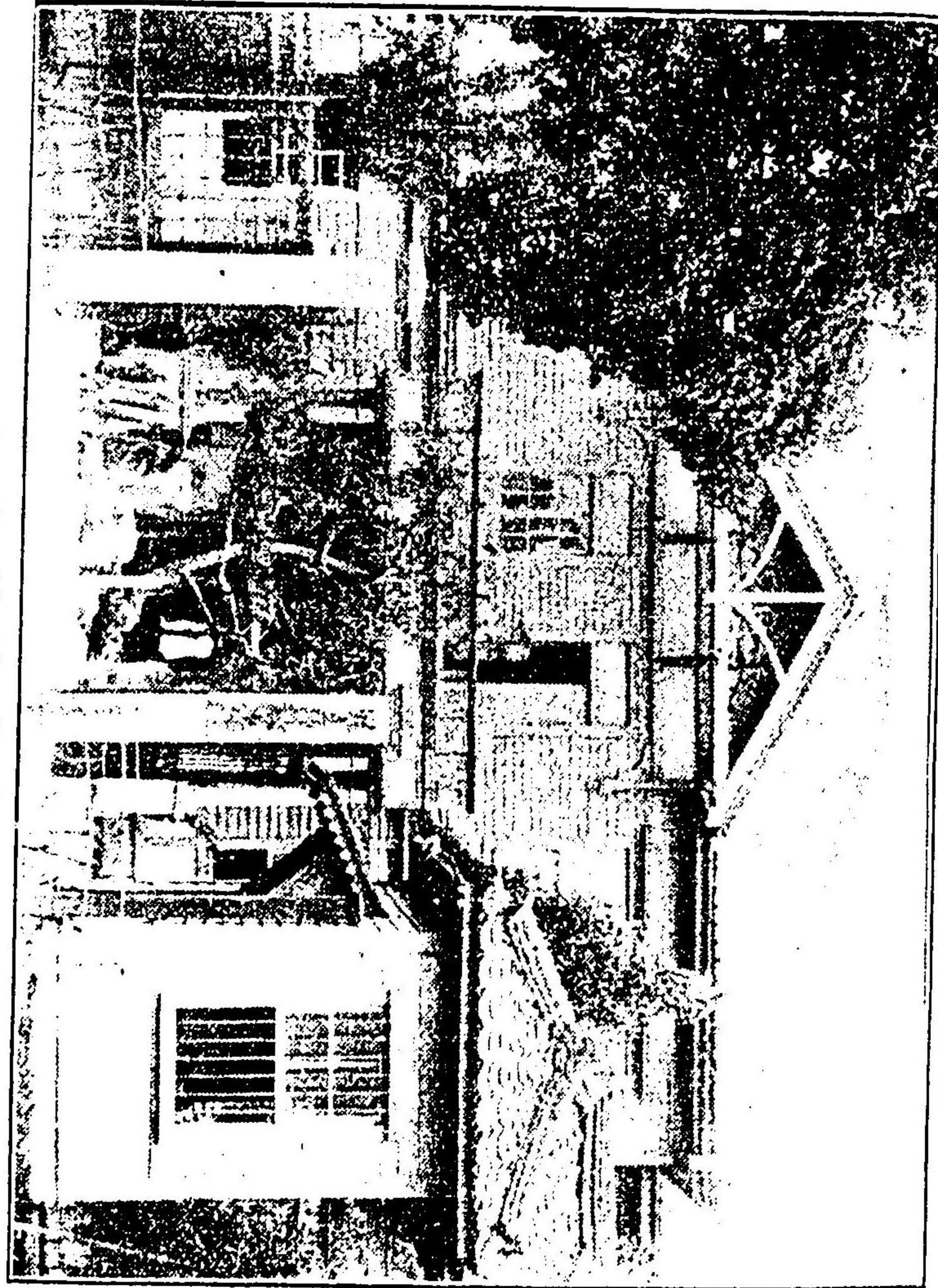
水ヶ江町

八重

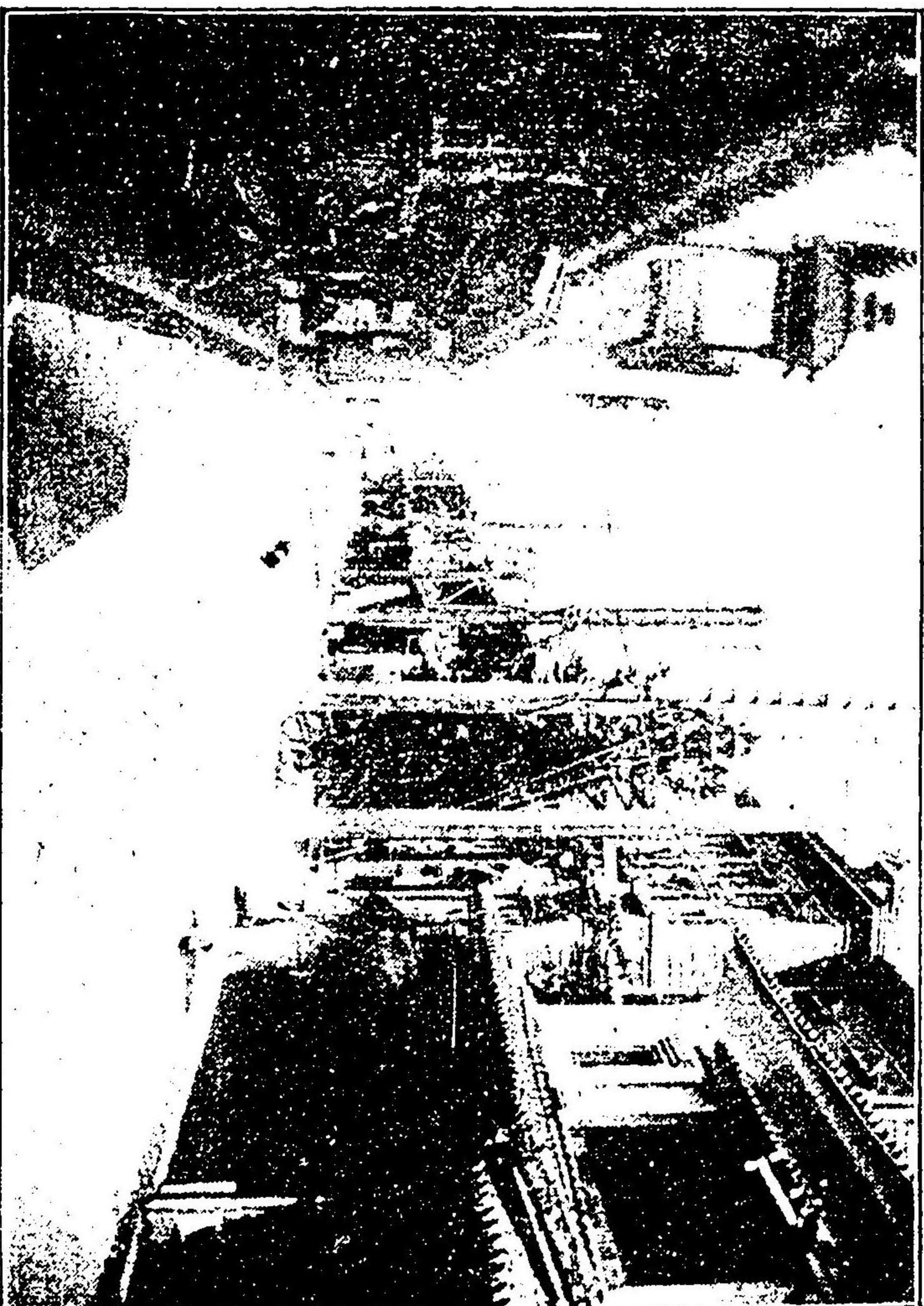
全

古川猪八

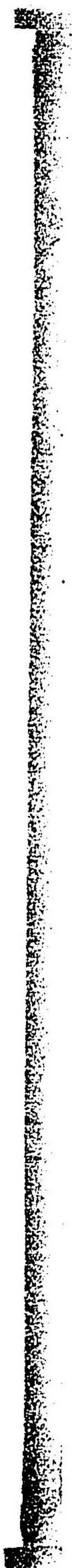
八戸町



縣立病院生館



京の通り





京のり通場馬粉

品質精撰 製造堅牢 營業確實

鶴澤製麵機製造

佐賀市點合町

鶴澤鐵工場

佐全 賀部 名出 所版 繪發 葉賣 書元

佐賀縣國
定教科書

特約販賣所

東洋樂器
製造會社

佐賀縣特約販賣所

內外書籍
新聞雜誌

大賣捌所

電話一四四番

書肆

佐賀市吳服町

大坪惇信堂

室園遊廊は明治二十年設置せられ回顧すれば今より二十二年前なりし所
在地は佐賀郡北川副村字木原村に在りて市内下今宿町に連接せり依て昔
通今宿室園と稱し居れり其當時は僅かに四五軒にて寥々の感ありしが年
を逐ふて増設せられ近時拾數軒の大夏高樓軒を並らへ漸次股賑を極め四
時客足繁き状況なり煌々たる電燈は威勢を増し晝を欺く如し



室園遊廊



商標

確實廉價

紙

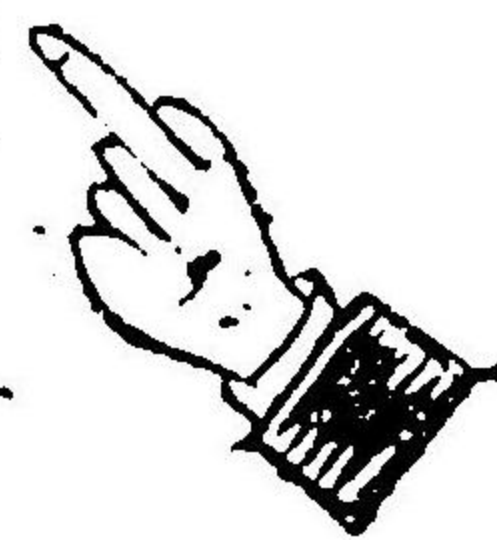
品質精撰

町木高市賀佐

店紙洋和部阿



八百八十八番



當店ハ和洋紙一切ノ卸シ小賣商ニシ
テ明治貳拾八年ニ開業シ本年ニテ拾
五年ニ達ス

諸官衙諸會社諸商店ノ深キ御同情ヲ
蒙リ特ニ當市兩新聞社ノ御用ハ數年
前ヨリ尙今日ニ經續セリ東西各地諸
彦ノ御引立八月日ト共ニ増加シツツ
アリ尙前途ノ御愛顧ヲ伏テ奉願上候

明治四拾貳年七月

店主 阿部八百八

はしがき

お手前味喰ぢやないけれど、お客様方のやんやんの御愛顧
に、預り度いためば、かりに、他方の案内者には、おまかせ、
のミ子の續く限り、私のアゴのなえるまで、ありとあらゆる傳
賀近在の、名勝舊蹟は申すも愚か、お宿の世話からお買ひ物、
さてはお土産のしらべまで、何から何まで御案内申し、ちっこ
もお客様にお不自由させまいと、先年出た此の案内者、幸ひお
客様の好評を享け今般再版するに至る光榮を得ましたが著者の
不行届なる或は至らぬ處がないとは限らぬ、夫は大目で御勘忍
を願ひ、若しやお氣に召したことがあったなら、お歸り遊ばし
てからの御評判、やんやんの御品賃を、どうかまあ讀者方
お願ひ申して置きますわい

己酉十月

著者申す

佐賀案内

筑紫野守著

徳川の流れ瀾りし其の昔は、三十六萬石の大名鍋島侯の御城下、茲
三百年の繁榮は、明治の維新に消え失せしこにはあらざるも、今は
却つて、昔寢しかりし佐世保、長崎の繁華に及ばねど、佐賀には又
佐賀の名所あり、舊蹟あり、名物あり、所自慢にあらねども、元龜
天正の剛の者（但し九州にて）龍造寺隆信の墓あり、七年の亂にて
彈痕巢の如く當時を追想せしむる佐賀城の古蹟もあり、さては神野
お茶屋の勝地あり、四季の眺めも常盤にてわけては春の櫻花、秋は
月見に一抔を鮎の下物に傾け給ふべき。川上川の勝景も三里に足ら

ぬ北にあり、明治名代なだいのういぶつの名物男江藤新平おにづか しんぺいの墓碑ぼひもあり、若し夫れ上戸かみうへの口には、鼻うごめかす甘露かんろの如き名酒あり、下戸のお方は丸房まるぼ露ろ、加壽貞良かすてらあり、商工業家の爲には工場、會社、商店あり、汽車の轡うづは清漣せいれん、楊柳やうりゆう、花月かげつ、なごあり、以て旅たびの憂うれさを拂はらふべく、以て疲れを慰なぐさむるに足る、急ぎ給はぬ旅ならば言はずもがな、急ぎの旅のお方でも、一度は足を止め給ひ、名所舊蹟ゆいせんを遊覽ゆうらんし、併あせて名物を味あじひ給へがし、但し舌鼓したつづみ鳴らすと鳴らさぬとは、これは諸君の御勝手ごかつてたる可し。

○佐賀の稱呼の來歴

佐賀の名の起りは、其の傳つとふる處種々ありて、何れも一廉ひとがたの信ずべき（或る方より云へば信を置き難い）筋すぢあり、其の中最も信を

置くべきものによれば、「昔樟樹かかしよじゆの甚だ高くして、そして榮さかえたる（やまこたけのみこころじゆんこ）る（やまこたけのみこころじゆんこ）がありけり、日本武尊やまとのむすね巡行し給ひしをり、これを見て、此地は榮さかえの國と云ふべしとのたまへりと、是に因よりて榮さかの郡こほりと云ひしと、これを轉てんじて佐嘉さかの郡と云ひ、又徳川氏初頃はじめころ、佐賀さかの文字に改めしと、されば佐嘉の郡にありしをもて、佐嘉と呼びしか、後佐賀と改めけるならん、さればにや佐賀の異名いみよを榮城けいじやうとも、又榮陽けいようとも云ふ、兎角こかく名稱めいじゆの來歴はこれ位に止めて、其の成立は、いかに云へば

○佐賀市の成立

▲廣ひろ狭せま：東西一里二十二丁二十三間半……南北二十丁

…面積零方里二分五厘

▲位置：佐賀郡の中央部

▲戸數：五千四百餘戸

▲人口：三萬六千餘人（年々増加しつつあり）

▲交通：九州鐵道市の北端を東西に通ず、北端、新町より川上（二里）を経て、熊の川（温泉地凡五里）古湯（温泉地凡六里）を經、唐津港に通ずる縣道。

南、水江町より諸富港に達する國道、一里半、馬鐵の便あり。
東、牛島町より國道二里弱にして、神埼町を通り久留米市及博多市に達す。

西、八戸町より徳萬を通り、小城町唐津港へ、又武雄町、伊萬里町へ、又長崎市へ達す。

▲水運：厘外津、高橋、今宿より舟にて諸富、諫早、天草、島原等

への便あり

▲町數：唐人町、白山町、元町、吳服町、蓮池町、柳町、新馬場、

片田江通りは、最も繁華なる町なり。

其外牛島、東田代、紺屋、今宿、材木、高木、上芦、東魚、夕日、水ヶ江、赤松、松原、寺、新、米屋、中、多布施、岸川、伊勢屋、伊勢屋本、與賀、西田代、西魚、黠合、六座、道祖元、本庄、長瀬、八戸、厘外津、等に分れたり

▲産物：素麵：酒類：菓子：丸房露、羊羹、加壽貞良：奈良漬：蓮

根：佐賀ネル：扇町緞通：鐵器：硝子：漆器：貝杓子：其他
附市場に集まるもの：柿：釣柿：葛：野菜：西瓜：瓜：蜜柑：

リンゴ：（以上は主に唐人町）泥猴魚、鰹（有明海の特産珍魚）

▲官衙 縣廳（舊城内） 監獄署（全上） 測候所（全上） 縣會議事堂（全上）

警察署（松原町） 地方裁判所（中ノ小路） 區裁判所（八幡小路） 郡役

所(中ノ小路) 市役所(北堀端) 稅務署(中ノ小路) 郵便電信局(白山町) 電話交換局(全上) 日本赤十字社佐賀支部(赤松町) 佐賀小林區署(松原町) 五十五聯隊(高木瀬) 聯隊司令部(西堀端) 憲兵屯署(中ノ小路)

▲銀行 百六銀行(新馬場裏門) 榮銀行(與賀馬場) 佐賀銀行(蓮池町) 佐賀縣農工銀行(白山町) 佐賀貯蓄銀行(英服町)

▲學校 佐賀縣師範學校(舊城内) 佐賀中學校(全上) 佐賀商業學校(舊城内) 縣立工業學校(水ヶ江町) 縣立農學校(神野村) 私立龍谷中學校(片田江) 縣立高等女學校(舊城内) 私立成美高等女學校(舊城内) 佐賀高等小學校 佐賀女子高等小學校 勸興尋常小學校 松原尋常小學校(共ニ北堀端) 循誘尋常小學校(柳町) 赤松尋常小學校(舊城内) 日新尋常小學校(六座町)

▲新聞 佐賀新聞(松原社前) 西肥日報(中ノ小路) 佐賀日日新聞(白山町) 佐賀家庭新聞(松原町) 佐賀商報(全上) すいらい新聞(蓮池町)

▲其他 米穀取引所(新馬場) 佐賀セメント會社(道祖元町) 地所株式會社(全上) 廣瀧水力電氣株式會社(唐人町) 製氷合資會社(米屋町) 佐賀縣酒造研究株式會社(赤松町) 佐賀馬車鐵道會社(水ヶ江町) 物産陳列場(北堀端) 農事試驗場(神野村) 縣立病院好生館(片田江) 私立池田病院(院長池田醫學博士十間端) 商業會議所(縣廳通り) 武德會支部(舊武館と云ふ縣廳の裏にあり) 内庫所(舊佐賀藩主鍋島侯の内庫たり、佐賀藩の歴史古蹟等を調査せんと思ふ人は、就て尋ねらるべし、松原社の南、宗龍寺の前にあり)

▲工場、商店、神社、佛閣、勝地、古蹟、等は以下に詳記することとす。

○松原神社……俗に日峯社と云ふ

停車場より南十丁、新馬場通りを前にして、松原川に沿へり
 松原川の清流滾々として圍繞し、老楠蒼々として境内を蔽ひ、新馬
 場通りの繁榮を前に控へたれど、俗塵にまみれず、市内第一の宏壯
 なる社なり、そも鍋島氏の祖先の靈をまつるところ、右なるは龍造
 寺家にして、中なるは直茂公及勝茂公を合祀し、左なるは維新の賢
 君直正公を祀る。首め直茂公（法號を日峯と云ふ）を祀れるを以て、
 日峯社とも呼ぶ。明和庚寅の年、治茂の代に廟を建てたるに始まれ
 り。潛乎たる老楠は、枝を交へて澄みちぎつたる緩やかなる流に映
 じて、閑雅幽邃に、壯嚴の意は自ら頭の下るを覺ゆ、白砂敷つめた
 る間、燈籠は行儀正しくキチント立ち並び、有田産の陶器製あり、

● 宇治茶 野茶 標 ●

● 東本自前全品茶湯道具一式 ●

品質佳 良價格低廉

佐賀市 北前國 上林茶店

● 明 四 ●

○松原神社……俗に日宗社と云ふ

摩耶場より南十丁、新馬場通りを前にして、松原川に沿へり
 松原川の清流深々として圍繞し、老樹蒼々として境内を蔽ひ、新馬
 場通りの繁華を前に控へたれど、俗塵にまみれず、市内第一の宏壯
 なる社なり、そも創始の祖先の靈をまつるところ、右なるは龍造
 寺家にして、中なるは直茂公及勝茂公を合祀し、左なるは維新の賢
 賢直正公を祀る。昔の直茂公は法號を日宗と云ふを祀れるを以て、
 日宗社とも呼ぶ。開和庚寅の年、治茂の代に廟を建てたるに始まれ
 り。轉乎たる老樹は、枝を交へて澄みちぎつたる緩やかなる流に映
 じて、幽雅幽邃に、社殿の意を自ら頭の下るを覺ゆ、白妙致つた
 る間、新廟は行儀正しくキチント立ち並み、自出産の陶器製あり、

宇治茶 嬉野茶

商標

山城國宇治上林製

肥前國
上林茶店
佐賀市

佐電 賀話 市二 吳三 服四 町番

品質佳良 價格低廉

被服類諸官衙御用
製靴原料一式販賣

佐賀市赤松町(中學校西側)

八谷恒吉

長電話 二二二番
(夏電 八八番)

大理石製あり、青銅の鯨(舊城鯨の門にありしもの)あり、繪馬堂あり、歩を社前に轉すれば神苑なり

因に曰ふ、毎年四月十日十一日、十月十日十一日は例祭あり。十月の例祭には、近郷より浮立の催しをなして、神前に舞樂す。此浮立は鹿前國特獨の風習演技にして、全國未だ其の技を見ず。蓋し笛、太鼓、鐘などの鳴物を鳴して、離し立て、奇天烈の假面、假装をなして、種々の舞樂をなすものなり。

○松原社神苑

奉能堂と相對して築山を設け、松原の清流を引きて池を湛へ、おもしろう作りなしたる松の幾株、常盤の色濃く、檻を設けて伺ひなしたる丹頂の鶴、さては静かなる池の面に波立て、緋鯉の泳ぐなど、

げに神苑としてうるはしう景色よし、わけて春まだ浅き如月の、肌
 うす寒きをり、梅は綻びて人の訪ふをまら、彌生の空麗らかなる時は、
 曙の花の色香艶麗に、暮れ行く春を送る藤波の花紫匂ひ、夏の夕に
 ソヨ吹く松原の川風に、裕衣の袖をなぶらせて、茶亭にアイスクリ
 ームを飲むも可なるべく、築山の彼方、泉水の此方、散策の杖を曳
 くもよろしく、月さやかなる秋の夕は、泉水の汀や、築山の石に腰
 打ちかけ、虫の音に秋の夜の趣を味へば、月は池の面に映じて清き
 川底に澄み、思はぬ方に八幡の鐘の聞ゆるに耳を傾くるも神苑の趣
 味ぞかし。若し夫れ雪の晨の景色は、又格別の趣きあり。
 苑内に直正公紀勳の碑あり。碑材は羅馬國産の大理石なり其の銘に

明治十五年八月吉日

忠 故從二位藤原朝臣直正宣力封疆夙

勳 竭方面之職盡心皇室承賛維新之功

之 國家柱石臣庶儀型忽聞淪逝良功悼

碑 傷因贈正二位以彰其功勞宣

從三位直大謹書

明治四年辛未正月二十三日忝公之恩榮士菅原種臣拜書

贊御之臣 成富清風建
百武兼行

佐賀謁閑叟公廟 秋月種樹

制度寮中度外人 維新之初公任制度寮總裁戲賦此詩 閑公此句戲陰呻

今過佐賀多追感 拜跪昭明殿察神 昭明殿者祀鍋島 侯爵累世之神也

松原神苑 谷口藍田

霏微朝雨柳煙籠 魚躍清波數曲中 往日廟謀誰第一 忠勳碑聳玉玲瓏

○名主鍋島閑叟公

文化十一年江戸邸ていに生る、父を齊直なりなほ、幼名を貞丸さだまると云ひ、齊正なりまさと稱し、後直正のちなまさと改め、閑叟かんそうと號す。幼より詩、歌に巧たくみなりしが、晩年ばんねんは優遊花月ゆうゆうかげつの間に吟詠ぎんぎを恣ほにせり。嘉永の初年がいはくとらい外船渡來がいふんとらいしてより、海岸かいがんの警備けいびに心を碎くだき、長崎港の固かために意を盡し、砲臺を築き、或は西洋式はんしやうの反射爐はんしやうろを以て鐵を熔とし、巨駟きよはくを鑄造ちゆうぞうするなど、全國諸藩に率先さつせんせる、大に稱すべきものあり。内は國政を勵み民を憐あはれ、外は朝廷を尊み國事を計り、維新の功、蓋けだし其の多きに居る。例へば版籍封土はんせきほうどを奉還ほうかんして、他藩を倣ならはしめたる如く、黄金七十萬兩と軍艦、蒸氣船じやうきせんの献納けんのうの如き、照々しやうしやうとして千代人の稱揚する所、兎角とかくに日本歴史に異彩いさいを放ちし維新の功業と、幕府時代の賢君として歴史の

ページを彩りたる公は、又偉人なる哉、又賢君なる哉、明治四年正月十八日享年五十八を以て薨す。官位は従二位大納言に至りぬ。後功を賞して正二位を贈られ、明治三十三年又従一位を贈り追賞せらる。嗚呼又快ならずや。

公の重なる事蹟じせきの一般を揚あぐれば其の顯著けんちやくなるもの。

- 1、他藩に率先さつせんして西洋式蒸氣機關せいやうしきじやうきかんを使用し或は反射爐はんしやうろを使用する等文明の先導せんどうをなししこと。
- 2、全國に率先さつせんして牛痘種ぎゆうとうしゆを藩民一般に行ひしこと。
- 3、全國に率先さつせんして硝子製造業等理化學的工業を始められしこと。
- 4、文、武の學問、技藝術ぎげいじゆつを獎勵せられしこと。
- 5、仁慈じんじの政を施ほし、勤儉貯蓄きんけんちゆくを獎勵じやうれいせられしこと。
- 6、維新の際、王事に盡されしこと。

公の文藻に富みたりしを一例すれば

呈水戸黃門

回_レ頭世上_レ謾紛々 敢以_二毀譽_一付_二白雲_一
天下英雄纔屈指 平生知己獨逢_レ君
林梢風斂鳥聲滑 欄角日暄梅花薰
自戒宴安如_二鳩毒_一 往來治_レ國要_二勳勞_一
孤島結_レ團意氣豪 西南決_レ皆萬重濤
黥奴若有_二窺_レ邊事_一 羶血飽膏日本刀

○招魂社

市内川原小路にありて、川上川の支流多布施川の清き流れに沿へる社なり。境内閑靜にして古松幾株枝を交へて河水に映じ、老楠蒼乎

として神靈を鎮むるに似たり。あはれ明治戊辰の役、王事に斃れたる佐賀藩士の、忠魂を千載に吊ひ、義魄を萬代に慰めんために、藩知事鍋島直大公の建てられたるものなり。詣で、忠節を頌し、英靈を吊ふ亦美事にあらずや。

○征韓憂國黨碑

招魂社の南側にあり、春を急いではかなくも、明治七年二月の嵐に散り失せし、狂ひ咲きの花の爲に立てられたり、(江藤新平島義勇氏以下戦死せし佐賀兵の招魂碑)

(碑面)嗚呼諸君子之碑

(碑陰)爲明治七年戦死諸士建之

明治十八年四月

佐賀有志者

○楠神社

一六

市の北端にして八幡社の西側境内にあり。拜殿は明治三十三年の秋、九州の平野に於て大演習ありしをり、陛下の御名代として、小松宮殿下營市に御立寄遊ばされしとき、佐賀停車場に御休憩所を新築しけるを、移したるものにて、神殿は其の時新築したるものなり、當社は楠公の像を安置し祀りたるものにして、實に寛永三年に創建せしものなり、楠公父子の誠忠を稱へ其の徳を祀りしは、全國佐賀を以て最も初めならんか。彼の水戸光圀公、湊川の建碑（元祿十二年）に先つこと、實に二十九年なり。抑々これが創設をなしは、佐賀藩の志士、深江平兵衛入道信濃なり。爾來志士の間は祭祀を行ひたりしが、其の後社殿荒廢に歸したりしを、明治三十六年に至り、又

各國時計

及ビ眼鏡販賣

並ニ保險附修繕

佐賀市八丁馬場

香田時計店

電話三四六番

鉛ツルベ

●内外藥品 ●有名賣藥 ●理化學藥

本品は醫學界に於て己に一般の衰弱症に特効を奏する良藥として賞用せらるゝ可溶性銕と含水炭素屬滋養強壯劑として最も價廉物美適宜に化學的特別の方法により製出せられたる極めて有効確實の滋養強壯劑にして嫌惡すへき銕味なく又全く消化器を障害する恐れなきを以て如何なる藥嫌ひの人も好んで服用することを得る理想的完全無缺の滋養新藥なり

ベルツ鉛効顯之證ベルツ鉛は芳香美味なるが故に如何なる婦女子も好んで服用する事を得る滋養強壯劑にして之を連續服用すれば血液を増進し筋力を旺盛にし体重を増加す故に營養不良、神經衰弱、貧血、病、月經閉止、慢性白帶、子宮病、原因する衰弱、產前產後の衰弱等に用ゆれば効顯殊に確實なる可し

於承天堂醫院 陸軍々醫 穂坂 暹

●メイトル類 ●工業用藥 ●繪具染料

造營の効を竣へぬ。佐賀の地を通らん人、結構の美はよしや湊川神社に及ばずとも、斯かる因縁ある神社なれば、一度詣で、日本忠臣の編鑑たる父子の神靈を慰め、誠忠を偲びたまふも、これ日本民族の義務ならんかな。

○與賀神社

與賀馬場にある與賀大明神は、肥前國の三大古社の一にして、欽明天皇の御代の勸請なり。肥前三大古社とは、川上沓姫神社、神埼町櫛田神社及當社なり。社内老楠蒼々として、社殿古雅に多布施の支流を前に控へて靜幽なり。境内に一殿あり、七月七日(陰曆)七夕祭りを行ふ。其の幅軸は一願の價あらんか。

調劑本舖 佐賀市蓮池町卅一番地
高取積粹藥館分店

○八幡社

一八

龍造寺季益(今より凡六百年ばかり以前の人?)鎌倉鶴ヶ岡八幡宮を此の地に勸請して、天下泰平、國家安全を祈りたりと。白山町の西、八幡小路の北にあり。龍造寺八幡とも呼ぶ。楠公社はその境内にあり。佐賀停車場を去る南凡六丁

○伊勢屋町太神宮

佐賀停車場を距る西南凡十二丁伊勢屋町にあり。天正十九年、太守藤原朝臣鍋島直茂の建立なり。もとは佐賀郡柿久(蟻久)村にありけるを、此處に移し給ひしとか。境内閑雅、銀杏の梢高き下に、千木神さびて鎮みませり。舊壹月十一日金銀の鷄替への神事あり

○牛嶋天満宮

は牛島町にありて、田圃に臨み、境内老楠數株鬱蒼として枝を交へ閑静なり。三百年以前の建立ならん。停車場より東南凡十四丁

○佐賀城の今昔

佐賀城は、別名を赤松城とも、榮城とも、又龜甲城とも呼ぶ。周圍凡一里、平地の城なり。

榮々に榮にし赤松の梢凌ぎて、ヌツト聳わたる天主臺、さすがは三十六萬石の大名の居城、打繞らすに一里にあまる碧なす底深き濠を以てし、三百年の封建の俛を、漫ろに偲ばしめしはこれ三十餘年の昔の夢、なべて世は明治の維新に封建制度の瓦壞と共に、桑田變じて蒼海となりし中にも、此の榮城ほど其の著しきはあらじ。いで其

の梗概を語らん。抑々佐賀城は久壽中（今より凡七百五十年前）龍造
 寺季喜、肥前の監代となつて始めて居城せし處なり。されど未だ城
 郭と名くべき程のものにはあらざりしが、其の後隆信、天正の際、
 鬪争を事とし殆んど寧日なく、近くは神代遠くは鳥津、大友に對す
 る爲、天正四年四方の外郭を修めしが、復慶長年間鍋島勝茂の時に
 至りて、始めて巍然たる樓櫓を築き、繞らすに湮濠底深く、爾來三
 百年、昔ながらに登城下城の麻袴の武士も絶わまなければ、櫓の太
 鼓も明六つ暮六つを報せしが、世は明治となり、人の心も何だか穩
 か下として騒がしい様な中に、四年五年も過ぎ六年までは暮れたれ
 ど、明くれば七年の二月、佐賀の野には時ならぬ狂ひ咲きの櫻一本
 春を急いで徒に散り失せぬ、あはれ明治維新の名物男江藤新平が、
 征韓論の容れられざるを憤り冠を掛けて郷國に歸り、少壯子弟に推
 されて佐賀城に籠れる官兵を圍みぬ。二月一日曉深かく、市人の夢
 を破つて轟ける一發の大砲は、天主を碎き二ノ丸を焼き三の丸を灰
 となし、唯僅に残りしは牙城と鯨の門とのみ、あはれ三百年の城郭、
 只一朝にして灰燼となれり。恨み多しとも又惜しき限りなりき。今
 は牙城も次第に壞れ行きて、僅かに残れるは師範學校の女子部とな
 りぬ。若し心あらん人は一夕杖を曳きて到り見よ、蘿草のまとへる
 數株の老松、秋の風に將た春の雨に、俤惚はしむる種となり、鯨の
 門に留まれる蜂の巢なせる無数の彈痕は、七年の乱の紀念物にして、
 其の激戦のさま思ひやられ、仆れたる敵味方の、幾千の武士の怨み
 のたまのこもれるあとを偲べば、悽愴の感漫に胸を衝き、當年の幻
 影髣髴として映じ出でん。

○名代なだいの名物男江藤新平

君は佐賀の人、諱は胤雄、南白と号す、維新前より王事に心を碎きしが、後、中辨ちゆうべんに任せられ、つぎて文部大輔左院副議長に進へ、五年参議兼司法郷さんぎけんじほうきょうとなりぬ。律令三百八十條を定め、又司法權ほうけんを行政權ぎんぎけんより分ち、各縣かくけんに裁判所さいはんじょを設けたるなど、其の功其の勞、よく人の知る所なり。

かくも王事に盡したる彼れ、一度征韓論せいなんろんの容れられざるや、西郷さいこう、副島そくじま、板垣等いたがきと共に職を辭し、後又板垣、副島等と民選議院みんせんぎいんの建議けんぎをなししかど、これ亦行はれず。怏々たいたいとして樂まざりしが、會々たいたい佐賀藩士族さがいはんしぞくに推戴すいだいせられて、さきの王事に盡粹じんすいせしもの、今は誤あやまつて鳥義頂等とりぎたかと共に難なんを國くにに構かまへぬ。あはれ其の心事しんじを洞察どうさつせば、其の

行たごなひは憎にくむべきも、必ず衷心ちゆうしん耿々かうかうたる赤誠せきせいの國を思ふて、燃ゆる如かりしを知るに難かたからざらん。かくすればかくなるものと知りながら、己やむにやまれぬ一片いつぺんの情誼じょうぎ黙もくし難かたく、二月一日兵を佐賀に擧あげぬ。集あつまるもの二千五百人、やがて敗れて西郷隆盛さいこうたかもりに倚よりぬ、隆盛容れず、又土佐とさに走りぬ、板垣亦容れず、遂に土佐田浦とさのうらにて捕とらへられ、四月十三日其の徒十餘人と斬ざんに處しよせられ、其の首は梟きようせられぬ。時に享年四十、あはれ明治名代めいじなだいの名物男めいぶつをとこ逝こいて茲こゝに三十餘年!! 若し一步いっはを誤あやまらざらしめば、必ず國家こくがの元勳げんくんとして柱石ちゆうせきとして、世の尊敬そんぎやうと信賴しんらいとを受けたらんを!!! 朝敵ちようてきの汚名をめいは枯骨ここつに印いんして、未み來らい永劫えいけつ消ゆるときなきをいかにせん、君の恨み夫れいかばかり、あはれ舊城内きゆうじやうじやうの西南隅せいなんぐなる君が碑ひを訪たごへば、晝尙ひるなほ梟きようの聲こゑ凄すずきところ、老らいて桂けいのまつばれる松まつのもと、竹林ちくりんのかけに悄然しよせんとして、恨うらむが

如くまた訴ふるが如く竹める墓碑は、千秋君が功と罪とを想はしめて、松の竿はハラ／＼と雨の袂を濡はす!!!

昔し佐賀の地を通らん人は、一度は必ず此の名物男の碑を訪ひ、一掬の同情を注ぎ給へ、よし其の罪は憎むべくとも、其の功は偉大にして千載に没すべからざるを、況んや其の衷心を洞察せば、忠君愛國の念に狂して身を誤れるをや!!!今茲に其の心情を披瀝せる詩一絶を掲ぐ、吟誦の間彼の前半生の意氣、風姿、髣髴として映出せん、

欲レ報ニ邦家海嶽恩 慷慨杖レ劍出ニ關門

辰星落々風蕭索 毛髮衝冠肝膽寒

皇道久衰羊大豕 滿腔慷慨止誰前

一封密奏回天策 淚濺東山秋暮烟

雙松山房集

我慕江藤子 卓落一偉人 雄辯發處

控レ鬼又打レ神 材大不容レ世 長揖辭ニ帝國

惜哉連城器 自碎不自珍

これを誦せば、彼の爲人蓋し思ひ半に過きんかな。

○ 木堀端の清香

舊城を廻る壹里の濠は、三十餘年の前までは、碧みちぎつたる水、底も知られぬほど深くして、佐賀城主の要害なりしが、今は泥深くして水浅きも、廣き幅は少しも變りなく、水鳥の群れて浮びたる昔の閑雅なる俤は、變じて滿池蓮を以て填められ、水漸く温にしては、卷葉の若葉水鳥の浪たつるにつれて、ゆらくと動くさまも、

さては城内の老松、古楠の影、洒々たる竹林の影、岸の揚柳と影を競うて映する様、詩趣に富める人の目には、さてもおもしろかるべく、西堀端と北堀端との角より、遠く縣廳を眺むれば、白揚の影、波靜かなる池水に映じ、白壁皎々たる洋風の縣廳、縣會議事堂、揚柳の梢を凌いで聳わたるさま、市内第一の眺めならんか。若し淋雨新に霽るれば満池蓮を以て蔽はれ、紅蓮白蓮は咲きみちて芳芬漲り、微風一たび徐ろに渡れば、清香郁々として衣袂に薫じ、月明かなる夕、逍遙微吟すれば、荷葉万個の玲瓏たる玉を頂き、微風一たびそよげば轉々玉をころがして、其の美、其の趣、其の景、人をして恍然たらしめん。秋風一度池面を渡れば、黄ばみたる葉折れたる枝、ザワ／＼と音して蕭殺の景、詩趣自ら湧かかな。されば四時（特に春と夏とは）逍遙の人三三五五たり（お堀蓮根は有名なり其味亦甘し）

亦甘し）

○高寺の鐘聲

「鐘は上野か淺草か」と云ふほど趣味はないけれど、佐賀十八町の人々が、辿れる夢路のおぼろにも、一―二―三つの捨鐘を、數ふる高寺の鐘の音も、晝は雜鬧の爲、よく傳はらざるが、十八町に人足絶え、街巷の軒燈影はのぐらき時間縫うて響く嫋々の餘韻には感深きものを。まして旅館の燈火幽かにして、寝かへりうつ旅人の夢路、或は亂れて、萬感の湧き出でざるを得ざるや否や。

（鐘樓は八幡社の前にあり。人或は八幡の鐘とも云ふ毎時に時を報ず）



○多布施河畔の松籟

趣味なき頭脳には頓と、何處がよいやら感ずまいけれど、佐賀市に最も詩的にして、最も趣味あるものは、清流多布施河畔の逍遙ならんか。

川上川の支流が佐賀市に入るまでの、一帯の川沿ひの堤防なり。市の西北より、斜に北にはえたる多布施の河畔は、兩岸は詩的にまがりくねりたる老叢が、枝を交へて流水を蔽ひ、影は流れ去る清澄の河水に映じて、底の金砂銀砂も動き出さんばかりにて、松が根は白砂路を埋みて、踏めばザクザクと音しておもしろく、脊振山は遠く雲烟の間に屹ち、天山は淡く雲際に頭を現はし、一帯の田園、山の裾まで連り、人家遠近に部落をなし、其の景其の趣、燕文の能く寫

し得ざるを憾む(神野お茶屋農學校附近一帯を最もよろしとなす)。
 夏の曉、秋の宵、杖を曳かば曉氣松の梢より來りて、芳露はすがくしき衣袖を濡ほし、月光は緑の梢を漏れて、流水黄金白金の玉を掠して去り、梢の松懸は瑟瑟弾するが如く、虫聲亦叢に和して、詩趣盡くるなく、興湧いて百篇の詩立ちに成らん。

○神野お茶屋

佐賀停車場より西北凡十丁、多布施川畔松青水明の間に、弘化三年二月藩主閑叟公經營せられき。公政務の餘暇を、此の閑雅幽邃なる別館に吟遊せられたり。池の水は至つて清く、まさなる砂は雪の如く、珍草、花木四時に絶えず。春淺くしては寒梅芳葩を漲らし、酣にしては櫻雲白砂を蔽ひ、紫のゆかりの色の藤の花最も名高く、杜

若池邊に咲きみち、夕闇に、幽かなる河畔の松籬に耳を清めて、螢を撲つべく、龍田姫のきまさば、紅葉、築山の彼方に爛として錦の如く、雪の晨の景、またえも云ひがたく、遠く北に脊振一帯の山を控へ、西は天山元として頂を雲に蔽はれ、南西遙かに、淡墨で而も一はけにぼかした様に、多良の山脈の連るさま、幕府の老儒佐藤一齊翁が「無限青山亭」と題せしも實に故あるかな。

○弘道館

日本三弘道館と稱せられたる、佐賀藩學弘道館は天明二年二月、藩主治茂の創設なり。始め松原にありしが、直正天保十年北堀端に移して擴張せり。敷地五千四百餘坪、通學所、寄宿所等完備せりと。學科は和、漢、兵、筆道、習禮、算術、槍、劔、柔、弓、馬、炮術、

水練、洋學等にして、又後更に醫學、海軍學校を建つ。明治の名士江藤、大木伯、副島伯、佐野伯、大隈伯、中牟田子、眞木子、鍋島幹男、楠田英世男、相浦男等も此の館に於て薰陶せられし人なり。今は高等小學、勸興尋常校等となりて、昔の片影もなし。

◎附向榮橋より川に沿ふて下ること二丁ばかりに、武富氏邸内に依仁亭の跡あり。聖堂碑文あり。心あらん人は行いて見らるべし。

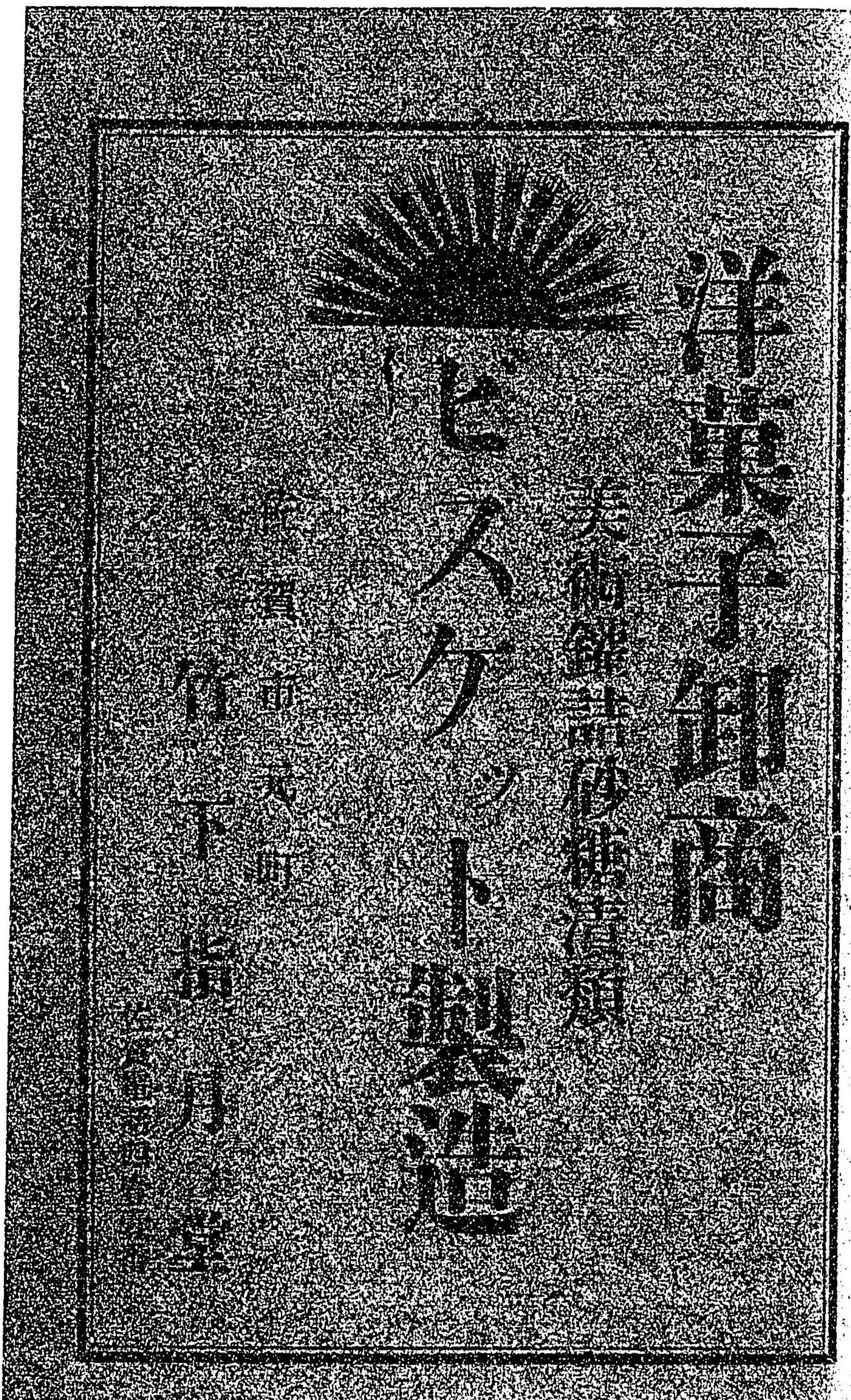
◎附佐賀人士にして物故せし最も知名の士は

古賀精里(寛政三博士)成富兵庫茂安(永祿年中に生れ、土木、水利に精通し、千栗堤防、及佐賀の水源地、石圍に於ける事業特に著し)忠吉。(元和頃の人、刀匠にして名あり)

○ 乾 亨 院 (南端東詰少し南に入る所にあり)

大楠の怪談、コンニヤクベツタリにて名ある乾亨院は、今は荒れは
 て、見る影もなし。されど明治七年の乱、佐賀兵の彈丸劍戟に疆れ
 たる官兵の。忠勇義烈なる遺骸を葬むれるところにして、大理石の
 碑も今は苦むして、忠勳空しく綠苔に埋れんとす。心あらん人は、
 此の王事に仆れたる士の靈を吊ふも亦可ならずや。新しき君國の殉
 難者には、溢るゝ同情を寄するものが、等しく國難に身を殉したる、
 古き戦死者に同情を瀉ぐことの薄きには、必ず其の厚薄を地下に曝
 けるならん。あはれ行いて一掬の水を手向け、其の靈を慰むるに吝
 なり給ふなかれ。

○ 願 正 寺



和洋紙文具

印刷業

釜屋 小前商店

高木町にあり、本派本願寺にして、佐賀縣の巨刹きよつちなり。堂宇宏壯どううこうさうにして、本尊は行基の製作に係る阿彌陀如來なり。慶長五年三月壽園大和尚の開基にして、現今の堂宇は元祿十四年の再築なり。本堂。茶所。方丈。客殿。鐘樓等あり。境内一萬坪ばかり、毎年一月九日より十六日まで報恩講あり。春秋の兩彼岸會と共に、遠近の善男善女詣つるもの引きもきれず。

○稱念寺

元町にありて堂宇願正寺に次ぐ、巨刹なり。淨土宗に屬す

○本行寺

西田代町本行寺ほんぎやうじ小路にあり、日蓮宗にして永正十五年十月の建立なり。今の堂宇は文化三年の改築なり。老樹を枝を交へ市内有數の勝

地なり。

○宗龍寺

松原神社の南舊城内にあり、曹洞派禪宗にして市内の巨刹なり

○龍泰寺

龍泰寺小路にありて曹洞派禪宗にしてこれも亦市内の巨刹なり
其他市内に小寺數多ありされど著しきものにあらざるを以て略す

○高傳禪寺

(本庄村にあり)

市を西南に離るゝと數丁、田園の中にあり。鍋島氏の菩提所なり。
明治四年其祖先の墳墓の散在せるを、悉く此處に移して永遠の維持
を計られたり。少閑をぬすんで至り見よ。松の枝かはせるさまのみや
びたる、山門堂宇の壯麗、美麗なる、境内の洒瀟なる、實に侯爵家

の菩提所たるに耻ぢず。肅謹以て墳塋に入れは、天正の豪傑隆信を
始めとして、累代の靈の鎮まれる幾十の碑塔は、已に苔むせるあり、
尙新らしきあり、往事の幻影の騷擾として映じ出でん。

附此寺に藏せる涅槃像は甚有名なり。非常なる大幅にして畫圖亦
傑作の評あり。

○法勝寺

(俊寛僧都の墓あり)

佐賀停車場を距る一里ばかり、市の西、佐賀郡嘉瀬村にあり。國道
の北側に「俊寛僧都舊蹟」法勝寺と刻める碑のあるところ即これなり
抑々嘉瀬(昔は鹿背と書けり)は平教盛の所領なりしは明かにして疑
ひなきことなり。又鬼界島の流人に、肥前國鹿背より舟にて、竊か
に衣食を贈りたりしも、平家物語源平盛衰記の明記しありて、世人

の事實と認むる所なり。されば其の舊蹟とは何ぞ、當時鹿背の庄の里正荒木乘觀は、俊寛が獨り赦免に漏れて、荒磯の浪に袂を濡らすを憐み、之を撫護しけるに、島物語にて誰も知れる家僮有王が、涙の袂を絞りつゝ、遙々と誼ひ來りしが、治承四年の春、俊寛病て歿りぬ。有王なきからなりともせめては都の地へと志し、此の地まで持ち來りぬとか、(幾くもなく有王亦病歿しければ、此の地に共に葬りと傳ふ信偽不明) 右大將頼朝、法勝寺の名を移し、俊寛の爲に寺を此處に建つ、これ此の法勝寺なり。當時一大巨刹なりしが、星移り物變りて、今は昔の跡とては、ささやかなる一小庵と、其の盛りなしとさ下されたる源頼朝の下文、門脇中納言の間免狀と、白色玲瓏にして、其の質堅き小介の密集して、蝦蟇の形せる石塊とのみなり。是ぞ世に傳ふるところの俊寛の愛せし蝦蟇の化石なると。一尺二三寸ば

かりもあらん、其の大きさは。俊寛の墓は本堂の長位にあり、驕る平家を仆さんと、志士と共に謀れる鹿谷の別荘の密議は、惡運強き清盛の爲に鬼界ヶ島の荒磯浪の涙となりて、赦面に洩れし俊寛僧都、みこか 潜に此地(嘉瀬)に月日送りしが(全寺の舊記を考證)、都の土とはなりもせで、怨恨永久に嘉瀬の土に埋もれて、千秋人の吊ふなく、怨魂日月の光を遮る槐樹の下に、陰に籠りて蓮華基石の上墓碑悄然たり。

碑面銘 治承四年三月二十三日

俊 寛 僧 都 塔

青苔の蝕むに任せて哀れなり

西肥古詠に

雨暗風腥鬼界邊 流人血淚灑蒼烟
 大赦何圖恩澤漏 三年跼踖叫皇天
 たましひや返り行きけむ、行く船も焦るゝ胸の一人残して

有。王。の。墓。 俊寛の墓を距る僅に數百歩、永源寺と云ひし寺跡の、
 今は田となれる中に、一畝歩計の小高き空地に、塔頭の古墳あり。
 これを俗に有王塚と呼ぶ。(信偽は保せず)生きては萬里の波濤を凌ぎて、
 鬼住む島に主に仕へ、死しては異郷の土となることを主と共にす。
 彼の忠、彼の義、偲び出で、感涙止めがたし。
 西肥古蹟詠に

奔哭堪悲戀主心 逐臣罪戾獨何深
 荒原瘞猶源姓 號泣相携殉海濤
 まことろにつかへし人の跡ごへば

塚のすゝきに秋風ぞ吹く

○川上の絶勝

佐賀停車場を北に凡二里、脊振の連山と天山脉との其の縫ひ目をウ

ネリくして流れ、崖を跳る瀑となりて白布をかけ、雪の飛沫となりて岩を噛み、水聲滔々、峯の松風と相和する川上川の急流が、頓に平野に入るところ、これ川上の絶勝なり。地勢、山急に盡き、山地と平野との分るる所なるを以て、山の姿、平野の見晴し、水の趣、何れも得がたきの景なり。

まして文珠山、春日山左岸にありて、松の佇ひ妙に、淀姫神社、實相院右岸にあり、峰巒秀麗に、春酣にしては兩岸の櫻爛熳として河に映じ、夏は長橋(觀進橋)の上、深山を出で水の面を吹き來る川風に、浴衣の袂なぶらせ又は舟を流に浮べて納涼も可なるべく、秋は文珠、春日の山の頂を照らす月の光、瀬々に映れる金波、銀波を、漂ひ流すも興あるべくまして嵯峨野の奥の松風も、斯くやと思はるゝ峯の松風、耳を清うし、實相院の鐘の音、亦詩趣を催さしむ。冬の

夜は遠近ちとちの森の泉ふたの聲も、峯の嵐にさそはれてめづへく、雪の晨の眺、亦詩人の一興たらん。糸山貞幹翁の歌に

櫻あり、月おもしろし、雪もよし、

此の川上ぞ住むべかりける

○川上の鮎

川上の鮎ちゆを味はざれば未だ鮎の眞の味を語るべからず。天下に香魚なるもの、恐らく川上川産の右に出づるものなからん。古の風土記にも肥大、美味なることを傳へ、大なるは尺餘、夏より漁夫釣して客人の賞味にまかせ、秋に至れば築やなして（秋の彼岸ひがんの中日最も多し）之を捕へ、炙あぶりて柑酸キヌス（醬油を加味す）に浸して、客の膳に上す、高尚なる饌たねものなり。築に落つる鮎を見つゝ、潑々はつぱらたる香魚の炙りを下物とし、此の絶景を賞して杯さかづきを傾くる、又無上の快なるべく、文珠山

頭の月を眺め、春日山の松風を友として、酒杯の間吟咏ぎんぎを恣まかにするも、亦興盡きんじんくることなけん。

副島蒼海先生（伯爵種臣先生）の詩に

橘柚橙柑秋共黄 遊人無日不思郷

肥前粳稻三百萬 川上年魚尺許長

附川上宿及都渡城村ト、キには、人家數十、茶亭ちや幾多あり。以て來遊の人の、希望を満たすに足る。

○川上の古戦場

又川上は、龍造寺と神代との古戦場にして、萬馬ばんばの嘶いなき、矢叫やこびの音の、絶まなかりしが、今は幽邃ゆうすい・閑雅かんが・詩人しじん・墨客ぼくかくの優遊にまかせ、茶亭軒を連ぬるも敢あへて俗氣ぞくきなく、雅がも俗ぞくも共に興あるところなり。

西肥古蹟詠に

河上帳營據ニ上游一 一時猛將競雄秋
 如何累葉葉家卒 屍積丘山落ニ水流一
 ふりし世の騒ぎにも似ず櫻さく

この河上に人を群れくる

○縣社淀姫神社

祭神は淀姫命よこひめのみこと、一名空津比賣命又豐姫命と云ひ、神功皇后の妹姫なり。三韓征伐に従て功ありきと云ふ。欽明天皇二十五年十月の建立に係る。肥前の三大古社なり。川上川の清流を左にし、古杉こさんの樹立じゆりせるところ、社殿宏壯・幽邃なり。右傍に神木老楠あり。今は枯れて幹のみを存すれども、非常なる大木にして、大明までも名木として知られたりきと。蒼海伯そうかいほくの「火國鎮守」の扁額あり。

○實相院

淀姫神社の西側にあり。本尊は薬師如來にて、和銅五年僧行基ぎよいきの開基せしもの、幾多の變遷へんせんを経て今日に至る。仁王門に神通密寺じんづうみつじの勅額ちよくがくを掲ぐ。中門・敕使門・通用門等あり。嘉永七年火災に罹り焼失せしが、今僅に方丈・客殿・十藏ニヶ所をあますのみ。實物としては、源頼朝・北條暨及び鎮西諸將の書疏、百餘通を藏す。心あらん人は、就て見らるべし。毎年陰曆三月五日より十五日まで經會きやうえあり。四方より參詣の男女螺集なにしゅうす。清き川上の水は院の麓を流れ、後には連山れんざんせまり來て、前には佐賀の市街ごふ基布し、筑紫の平野一望の間にあつまり、遠くは温泉。多良の山々淡墨たんぼくに彩り、有明の沖。千歳川の流、雲霞うんげの間に認められ、肥筑一帯の山河模糊さんかもことして、其の眺望筆舌ひつぜつの盡くす所にあらず。況して境内老松の蟠屈はんくつせるえも云ふべからず。附水上山つみみづさんは實相院の西方一里にあり、言ひ傳ふる如くんば、壽永の

乱に、王子難を避け此に來り、遂に雉髮ちはつして神子と稱し、宋に入り經山寺けいざんじに至り、佛鑑和尚に従ひ、衣鉢を受けて歸り、此の山に寺を關く、衣冠・劍履・僧服、猶存すと。

西肥古蹟詠に曰

八鳥戰塵白日昏 后妃奔竄泣皇孫

建文天子傳衣鉢 千載儼然祠廟存

个もなほ仰あふがれにけり。山寺を

開さし君が法のすがたは、

尙全寺の山内に、安徳天皇の御陵と稱するものあり。陵山と号す。史學家の考證こうしやうを待ちて眞偽判定せん。佐賀の故人の記録には、此に關する記事多少あり。

大友軍の古戰場八幡原はちまんはらも程近し。

○川上の御茶屋

川上川の東岸、小高き山の上、松の老いたるもどに、十可亭と云ふあり。そもこれは藩主閑叟公退隱後營築して、遊息所となし、處にして、都人來村にあれども、普通に之を川上の御茶屋と云ふ。亭上坐ながら築つたを觀るへく、左は文珠の峰を控へ都渡城みやまに連り。右は實相院及び淀姫の祠に對し、清勝閑雅にして、佐賀城北の一仙郷たり。閑叟公此亭に在て賦せられたる詩歌數首あり。一二をあげれば

河上偶作

雨後群巒雲髻堆 滿溪新水碧於苔

春風頗解醉人意 撲面飛花作雪來

全

河上溪山秋是奇 雲林圖畫放翁詩

木樺花開酸柑熟 正是香魚欲下時

都人來なる十可亭に一夜ねて
よもすがらやな瀬の音の高ければ

旅ならねども夢も結ばず

○春日山の墓所（川上川の東岸川上より東二三町）

奥まりたる春日山の幽かなる峯に、枝交す松の木立、日の光を蔽ひて、秋は日ぐらしの聲に、寂しさを春の日山のおくづき、あはれ春日山頭、代蒞土の一面平かなる壘の如くして、常盤なる松の、瑟瑟たる響たえで、遙かに川上川の岩に激する水聲と相和して、閑靜なる念と、森嚴なる感との、禁する能はざるが、墓標の櫛、緑の色も稍あせたるほとり、尙ほありありと讀まるゝは、「原肥前國守累遷從二位大納言贈正二位藤原朝臣直正郷之墓明治四年辛未二月十八日薨」の文字さへあるに、其の後には全じ様の形せる墓の、小さきが「古

川與一源松根之墓」の文字も、尙あざやかなり。さるにてもこはいかに、契り深き君臣か、死して黄泉の下に尙君として彼を愛撫し、彼尙臣として身に犬馬の勞をとる。彼が碑陰の歌に

今はとて急くや終ひの旅衣

たちおくるべき身にしあらねば

君ひとりのかしまつりて古さに

かへる心のあらねばこそあらめ

と誦せば、早や此の美はしき而も悲惨なる物語を、更めて説くの要なけん。辭世の歌を誦せば、遙けき峯より吹き下す松風に、はらくと散る松の雫は、両の袂を濡はせつ、川上川の水聲は夢の如くに聞ゆ。

附松根は與一と稱し、寧樂園、霞庵等の別號あり。幼より閑叟公の御側附となり、江戸に在て香川景樹に歌を學び、當時の諸名家と交り、又書畫を學びて皆其の妙を究め、名聲甚た高く、寸楮も人争ふて求め、愛玩喚賞するに至る。明治四年正月十八日公薨し給ふに及び、哀傷禁すること能はず、同二十一日地下に伴隨して瞑府の門に入りき。あはれ其義烈なることよ。時に年五十九。初夢合、喪儀峯、嵯峽の葉、松根筆記等の著あり。

○金立山

川上村より東一里弱、金立村に聳ゆ。孝靈コレイ天皇の七十二年、泰始皇シノシロ方士徐福をして、東海に入り、不老不死の靈藥を求めしむ。徐福、童男女數百人を率ゐ、海に浮び日本に來り留る。徐福始め此の山に隠れ、後、紀洲熊野に移りきと。

超然教育者の後援
専ら新精の良教育品の研究販賣

圖書教育會撰定品專賣
毛筆鉛筆 兩用輪廓 畫用紙
理想的文房具學用器具
圖書樂器運動手工用具
新理科器械標本模型藥品
教育繪畫 美術繪はがき
實用電氣諸機械
醫療器 灸療器
名和昆虫研究所標本

株式會社 泰東同文局代理店

教育品研究販賣所

佐賀市 啓進社

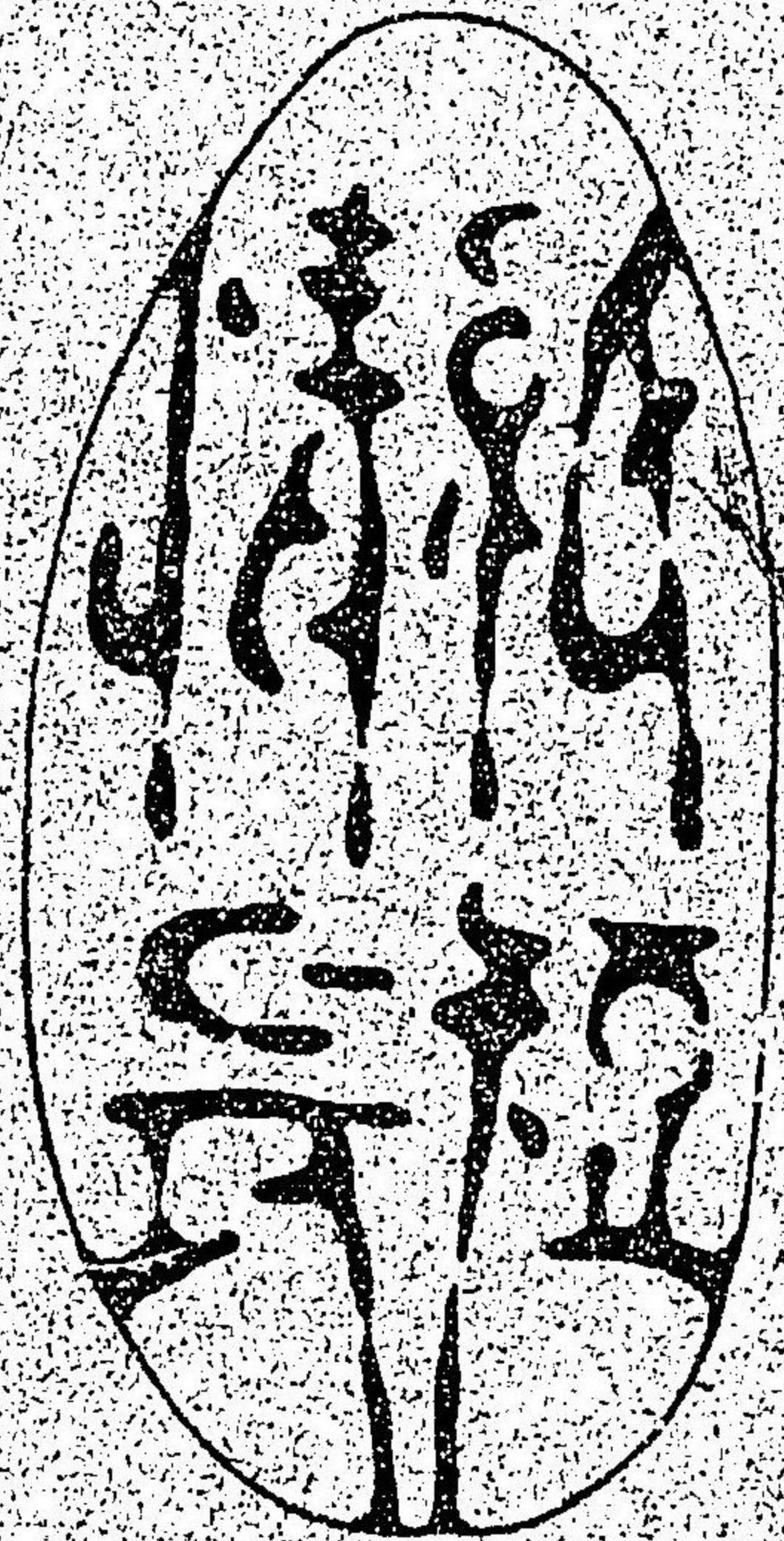
振替貯金口坐大坂四壹壹貳番

特約店

長崎市 池田商店
佐世保市 中都留
伊万里町 前田官治
大販賣所
全志賀店
小城町 村山龜吉
牛津町 安本商店
北鹿島 吉村市三郎
鹽田 小笠原書肆
新北 石橋房吉
販賣所
各郡學校商品供給
所 市町村各一ツ所

諸官衙御用

貴ゴ
金ム
印印



優彫
美所

佐賀市元町

文賞堂

賣藥製丸

金立神社 金立山にあり。保食神、岡象女、神相殿徐福を祭る、建
立の年月不詳。

○鬼岩屋

金立村川久保村より、神崎郡の山際に數百の石窟せきくつあり。土人鬼の岩
屋と呼ぶ。上古穴居のあとか。但しは上古の墓地か、兎角者古學者
の好史料たらん。

附川上附近の古蹟 (春日村にある分)

甘南備神社 祭神天兒屋根命にて建立の年月詳ならず。三代實錄
に、本社に従五位下を奉られけることゞも見ゆ。(大日本史に
も見ゆ古社なり然れども今は村社なり)

甘南備城 延暦中、甘南備高直肥前守に任す。大同、弘仁の間、
大宰少監西海道觀察使に任し此に居る。一條帝の時藤原中納言

文時左遷せられ、來て此處に居る云々。就て探るの要あらん。
西肥古蹟詠

緬懷延歴大同辰 南備名殘不見人

天網解紐王風熄 兵戟侵尋幾百春

あまなひの名のみかすかに残れども

鐘の音さへ高さ山寺

高城寺 龜山天皇の御宇、文永七年の創建にして、古文書を藏す

と。甘南備城の趾にあるならんか。

春日部屯倉 安閑天皇の二年五月、始めて春日部の屯倉を置き給

ふと。其の跡詳ならず

國分寺 聖武帝の天平十三年に、詔して設けしめられたる國分寺

の跡あり。今國分寺村云ふ其の國分尼寺は今尼寺村と云ふ所か、

玉林寺 後小松天皇の敕願所なりきと。川上よりは程近し。

「所變れは品變る」と云ふ諺もあり、佐賀には又佐賀の方言あり
敢て奇を好むにはあらねど、著しきものを、二三對照して一覽
に供す。

佐賀方言と普通語との對照

方言

普通語

イーンサッタ	………	言はれました
インサッタ	………	おつしやいました
イカンパンタ	………	できませんよ
イヤパンタ	………	若くは行きませんよ
インマ	………	きらひですよ(嫌の意)
イッセンバ	………	後刻又はあとでの意
イットキバツカイ	………	理髮床
イッチョー	………	暫時(しばらく)

イカンニャー……………(歎息の語)意の如くならざる意
 イヲーゴタゴザンセン……………(言ひたくございません)
 インニャー……………(否の意)(否定の意)
 イツコン……………(一尾)魚を數ふるときに用ゐる
 イッピャー……………(一抔)強く云ふ時溢るゝ意
 イヒユーボー……………風變の人間…頑固の意もあり
 イケバヨシ……………悪漢又はころづき
 □クツーナワロー……………碌でない人の意
 ババシカ……………嵩の大きなるを云ふ
 ハチキタ(クル)……………ハチと云ふは接頭語にして語を強める爲に云ふ
 ハラキヤータ……………(立腹の意)腹立てた
 ハンネータ……………離れた
 ハゲシカモン……………勢ひ猛きものゝ意
 バッテン……………だけれども…ですけれども

ニダメク……………ムシアツイ
 ニエーノスツ……………匂ひのします
 ニャーゴトシンサツカイ……………何事なさいますか
 ホメク(ホメカス)……………炎暑烈しきことを云ふホメク天氣でございます
 ホトメク……………よくもてなす意
 ホトクナカ……………拙劣の意
 ホンニ……………ほんとに…實にの意
 ホンポーニャーワカラシ……………ホンポーは正確の意にて、しかごわからん
 ヘゲタ……………弱り果て、困り果てるを云ふヘゲタと略全様の意適當の譯語なし
 ペロイシタ……………皮などの剥げたときに云ふ
 ベライシタ……………滑稽的働作をなすを云ふ
 トゴユツ……………案外案外實に案外との意
 トッピョシモナカ……………動作の遅緩なる者を云ふ
 トトシカモノ……………

トヒ^ホーモナカ……………とほーもないの意

ドローローコーロー……………ごーやらこーやらの意

トツケラート……………ゆつくりとの意

チンバ……………跛者

チンゴ……………腸

チンヂュー……………髮の毛の縮みたるを云ふ

チンヂューガミ……………チヂレゲ

チキ……………天秤

チカッ……………少し

チヨードヨカバンター……………

リ……………發音弱きときは恰もろしの意なれど強きときは謝絶の意となる例教へて下さらんでもちよーごよかばんた教へくれんなら教へなくつてもよろしいムツトシタ意

ヌカイミチ……………でいぬい泥濘の爲めに道悪きを云ふ

ヌタカ(ヌタポー)……………不潔なこと不潔な人の意

ヌスクラキヤーテオンサツ……………まじめ眞面目くさつていらっしやる

スライオードーモン……………ののじる語名譽心も廉恥心もなく義理も道理分らない非常な鐵面皮なものと云ふ意

スライクライ……………爲す事まで徒に遊ぶとを云ふ

ヲ

ヲサ……………見下げて人を呼ぶ語

ワルボームス……………わんぱくむすこ

カンメンサンナ……………弱く云ふときは辭退する會釋となり強く云へばムツトして構ひなさるな干渉なさるの意

カスキハイシタ……………實方に應しぬとをなしたカスキ

ヨシナカ……………ワンパク

ヨサイ……………よる(夜)

ヨセーイキヨッバンター……………他へ出かけてゐますよ
ヨカバンター……………よろしうございませう又はもう
いらないと云ふ意ともなる

ヨカロー……………よろしうございませう又はもう
よろしからうからおよしなさい
の意ともなる

ヨソワシカ……………恐ろしいの意

ヨメクサン……………嫁さん

ヨンゴーヒンゴー……………ゆがみひがみ

タンボートイ……………糞溺取るもの
糞溺コエ取るもの

タンナンサン……………旦那様

レ

ソクシヤーカーシツツァンノ……………嫌な(生意氣な)人だことよとの
意に近し

ソギヤン……………其の通り

ソイパッテン……………夫だけそれれも夫ですけれそれも

ソイカラソーシューダッタ……………それからさう致しませうよ

ソラヤッバンター…トランカンター……………ソラはお手を促す言葉ソラやり
ますよソラあけますよソラおと
りなさいませ

ツンボー……………耳の遠きを云ふ

ツクシカモンナター……………美しいものですことね

ヅレヅレ……………不整にし乱雑の意

ツンバイコーラオコーダッタ……………ささえておきませうよ

ツンマケタ……………うちまけた

ヅクニュー……………頭

ネッカラハッカラワカラバンター……………全くわからないよ又は全くわか
りませんよ

ネタボー……………寝ぼ

ネンネー(ネネ)……………赤兒一二歳の兒

ネマイメシ(ネマツトツ)……………腐敗した飯又は腐敗してゐる

ナイボー……………癩病患者

ナイ……………ハイ(答ふる言)

ナカバンター……………よございませんよ又はありません
 ナンチユーモンカー……………カーどヒクキハ物を悪しくそし
 ナイカンター……………問意 るヒカヌキハ何と云ふものかの
 ナラシ……………何ですか何でございますか
 ナチカチモナカ……………手拭着物などをかけるもの
 ムケハゲモノ……………引きしまりのなき意又は乱雑の
 ムイヤイ……………意 容赦もなう
 ムゾーガル……………むりやり
 ムカイ……………カワユガル
 ムツカイシタ……………嘔氣のさすこと
 ムラメシゲイナカ……………〔對手の言動の意外なるに愛想の
 ウチノダンナンサン……………盡きて心に怒ること〕
 ……しみじみどうらめしいとよの意
 ……うちの旦那様

ウツカンゲタ……………うちこわれた

葬

ノスカイ……………娼妓
 ノスッポ……………放蕩づくもの(ナマケモノノ意)
 ノメツラ……………廉恥心名譽心等なきものつら
 オロチーテキタ……………急遽にして稍うるたへてきた意
 オシヤー(オカズ)……………副食物
 オーケンナカ……………減りやすいこと
 オオンサイマッセンチャッタ……………おらっしゃいませんでした
 オケタン……………榎屋
 オロメヅラシカオツサシブリー……………おやめつらしいことよ久しぶり
 オイデンサイタ……………にお出でなさいました
 オクモジ……………菜漬
 オドマー……………自分たちはの意

オゾミンサツタ……………お目覺ましなさいました

オメーコガケモナカ……………思ひ氣付もなかつた

オツケ……………おつゆ(汁)

オードーナモン……………悪しき度胸のすわつたものの意

オコーノモン(コーノモン)……………澤庵漬

グンニヤイ……………氣力勢力衰へて凋れたるを云ふ

グーラシカ……………肩身のせまき意

グライスル……………覆倒又は落膽失望又は勞れると

クル……………しかる意

グワンシン……………あばた

グッヤ……………龐雜の狀を云ふ

ヤッテヤイバナシ……………むやみやたらにの意又混亂無規

マグレタ……………律の意

マクテ……………氣絶した

マ……………ホニ

マチゴゴツゾマチオーモン……………まぢがふと云つたつてこんなとは

マイツトキャーデケマッセンテツチャ……………まぢがふもんでないにこんなと

タバンタ……………迄まぢがつた者た

マンザラ知ラン人デバシアッカシ……………今暫くは出來ませんと云ふこと

ター……………でございましてよ

ケーマカ……………全く知らない人でばしあります

ケブカ……………かネ

ケ……………小さい

ケ……………けむい

フロンラキヤータケンオイーオンサイ……………湯が沸きましたからおはいりな

フイジョーガイカ……………さいませ

フイモン(オフイモン)……………腫物等がへんニ痒ゆき時の言

フーケンサイ……………履物

フーフーショイギヤースカン……………親しき間柄に相手の言動を否定

コラン(コロー)(コラ)……………する場合例フーケンサイをぎや

……………んもんかんだ

……………心からすかない意

……………妻なごを呼ぶことば

……………

……………

コッチャーナモン……………厄介なもん
 コーチュエーサンノ代カラアル……………年代久しき時ある意剛忠は肥前
 〔四〕年ばかり前の人にて最久しき人と思はれてゐる
 コイハヂモナカモンノ……………懲り性もないもんぢやない
 コリヤナイカー……………これは何ですか又はこれは何だ
 いといやす意
 エジ―オードーナモンノ……………非常に悪度胸のすわつたもん
 〔ち〕やないの意
 エズ―コンバイ……………非常に來ることの遅いぢやない
 の意
 エークソバラデシタコト……………焼腹でしたこと
 エークロータ……………酔つぱらつた
 エシヤクコンボーシコボレテ……………追従お世辭だら〜の意
 エークイエンジュ……………右回左折たどりたどりの意
 テンガナモン……………巧妙不可思議なもの
 テッシラート……………手厚くと云ふ意

テンデンタツテ云フモンデ……………めい〜口々に云ふ者だから
 アラヨ―ソクシヤカ……………あらなんぞ云ふつらくにくいこと
 〔か〕の意に近し
 アギヤンシューデシタギ……………あんなにしようとしたらこんな
 コギヤンナッタ……………になつた
 アン畜生ワロー……………あの畜生奴
 アイバツテン……………であるけれども…であらうが
 アイナイドン……………右 全
 アヤモコツケモナカ……………味も風味もない
 竹シツケナイドン……………突然ながらの意に近し
 サイバノ―ドーチャローカ……………さればだネどうだらうか
 キメーモン……………利發な人
 キサンナモンナター……………存外速いもんだなゝの意
 キヤ―モン……………買物
 ユ―ルシガチャ……………夕方

ユッラート……………ゆるりと
 ユーユートヨカ……………心にかゝることもなく悠々とよ
 いの意
 ムッチャークツチャーニナカ……………めつたにはない
 メソイ〜スツ……………めそ〜する
 メメグルシカ……………ウルサイ
 メノメキザンニスラゴトユー……………眼前ありありどうそをいふ
 ミタンナカ……………みつともない
 ミヤーラゲマッシュュー……………まゐりませう
 ミヤーランカンタ……………(神社寺)まゐりませんか
 ミンゴ……………耳あか
 シカンニ……………しつかり嚴重に
 シカッナ人バイ……………乱雑不規律な人ぢやない
 シャービヤー……………さしでぐち

シミヤーダチミヤーラゲタケン……………食事済して直ぐ参りましたから
 モーオカメーンサンナ……………もうおかまひくくださいますな
 シギー……………しびれ
 ヒットダス……………ひつとは語を強むること「アノ
 人ハ妻ヲヒット出シタ」
 ヒダルカ……………ひもじい
 ピッチーシタ……………びつくりした
 ヒョークラカス……………冷罵ヒヤカスの意に近し
モ
ゼンモン……………乞食
 ゼンナク……………是非とも
 センカンター……………なさいませんか
 セカラシカヤツモンナター……………うるさい人ですな
ストンピン……………オドケモノ
 スッテノグッテノイフタ……………すつたもんだ云ふた

對話 一二

六六

客「カスメチックのありますか

番頭「ナイゴザンスッパンター

(ハイありますよ)

宿の女中に戯れると

あらよー、にゃーごとしんさつかい、こなたのほんにー、そくしゃーか、ひんのひなきゃーぞーたんして、ふーくしゃーぎゃーすかんばんたー、ほんにーうらめしかおきやくさんのー譯何事なさいますか、此方様のほんとに憎らしい、晝の日に戯談なすって、しみぐと好きませんよ、ほんとにうるさいお客さんだことよ

書生言

アサンナー代數シタコー

君は代數を調べたかね

アサンソギャンコトノアンモンコー

君そんな事のあるものかね

女子(學生)

遊びギャーキンサイ

お遊びにお出でなさいませ

小供

〇〇さん遊スポー

〇〇さん遊びませう

妻君

あなたんところの、だんなさんなー、えすーお歸りのござんせんなたー

あなたの旦那様は、ほんとにまあ(意)お歸りがございませんことネ、、、

○名物案内

●醬油

佐賀の醬油は近年著しき

進歩の狀況なり色澤香味佳良とな

り各縣共進會品評會等にて優秀の成績あり斯業者の勉勵一方ならず將來益々發達せん趨勢なり

●酒

佐賀の酒は古來より

醇厚の聞あり夙に酒造研究所を設置して

斯業の改良發展を企畫せり品質香味の上に於て他縣産に遜色なし

●漆器 古へより數名の技術に巧妙なるものありしも微々振はず先年來斯業興起の奨勵をなし前途有望なり製品は日用家具品木盃等なり

●綿打器械 近年益々進歩發達の狀況なり清韓各地に輸送し良器械の好評を享け居れり

●丸房露 今より凡三百年前、肥前藩の御用菓子屋たりし横尾市郎右衛門と云ふもの、和蘭人より其製法の傳授を受けたと云ふことなり、形狀は菅笠に似、色澤茶褐色にして、其不恰好を極むれども、風味甚佳良にして、原料亦雞卵、澱粉、砂糖等を以てせる故衛生上有効なる製菓にして、世人の賞味して措かざる所なり。

(價壹斤金參拾錢)

●嘉壽貞良 丸房露と略同質にして、只其の形狀食パンに似たりこと亦高尚優美にして、風味佳良なり上等の茶菓たり。(價一封四

百目金九拾五錢)

●羊羹 古來其の名を全國に知られたる山城伏見の産と、始と類し、風味佳良なると色澤の艶麗なるとは、人をして垂涎せしむ、味は却つて伏見産の右に出てんか、佐賀地方の名物なり、小城羊羹の名世に著れたるは、昔時伏見の人小城町に來りて、製法を傳授せしに因ると、佐賀の産取て小城羊羹に遜色なし。(價壹斤金十六錢)

●釣柿 本縣特有の産にして全國に比類稀なり、殊に倉谷柿の名噴々たり、柿を小繩に結び、日光に干して、百個を一下けとなし、市場に出す、頗る糖分に富み、其の味の絶佳なること、砂糖製菓の遠く及ぶ處にあらず、殊に茶席の用としては、此の右に出つるものなし尙生柿は味最も佳良にして賞讚するものなり市にては多く唐人町の問屋に集る價

熟煉 一把(百個)

金凡壹圓より四拾錢位

稻 左 一把(百個)

金凡七拾錢より貳拾七八錢位

生 柿 一個

金壹錢位より參錢位まで

マイ干 市場に集る量少し

●お堀蓮根

舊佐賀城の城池にある紅蓮白蓮の地下莖なり、味淡白

にして、多少の澁味と甘味とを有す、他方の産にまさり味雅なり

●佐賀ネル

厚生舎の製品にして、染色の確實にして、地合の堅牢

なるを以て名あり、實用的織物なり。

●房町毛氈

舊藩の頃佐賀扇町に於て、製造せられたるものなるを

以て、此の名あり、原料は木綿糸を以てし、高尚優美なると、保

存の久しきに耐へ歲月を経るに従つて、益々其辭價を貴からしむ

るとは本品の特色なり、今は市内に一ヶ所の製造者と監獄署とに

て織出す。織通と異なるところなし、普通疊一枚敷のもの八圓位

より拾貳參圓位までなり。

●奈良漬

近郷に瓜の産出多きと、市に酒造業多き爲、其の産出多

し、味雅美にして風味よろし、(代金一空七錢より拾錢位)

●倉谷葛

佐賀の市場に著はれ、葛とし云へば倉谷葛の名を以て呼

はれ、品質特によろしく、片栗粉と共に名物の一たり。(代價一

袋三百目參拾貳錢位)

●泥猴魚

有明海の泥土中に棲息する魚類にして、三四寸より七八

寸に至る、肥満して澄々元氣よくして、色泥色にして少しく藍色

を帯ひ、形圓形にして長し、此の魚の珍らしき点は、瞬するにあ

り、脂肪多く然も味甚た佳なり、宜なり 皇太子殿下御立寄の際

は、畏きことなから御饌に上れる魚にして、長崎に於ても今一つ

泥猴魚をこの御下命ありしやに漏れ承りぬ(價一尾金凡五六厘)

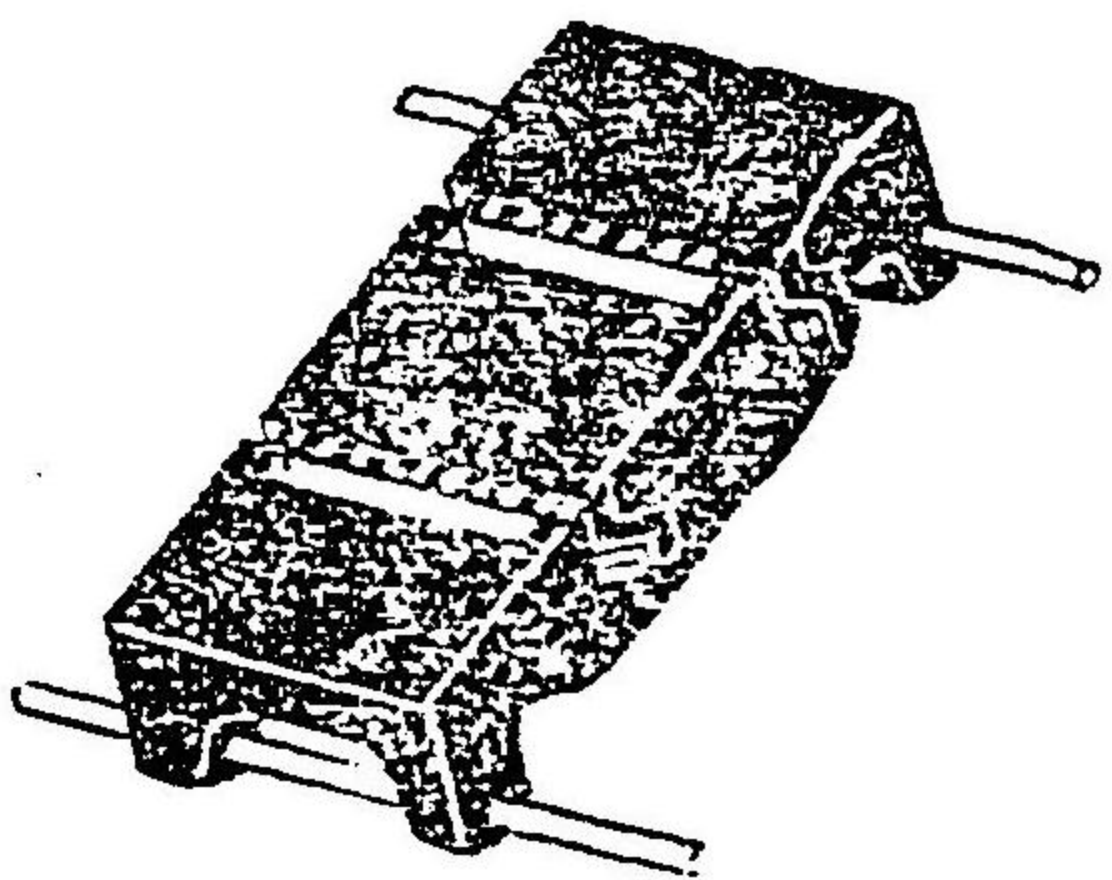
佐賀市に多く集まる、生魚のまゝ、長時間蓄ふることを得、冬季は市場に表れず。

●**蠣牡**(方言)有明海産の一にして、其の形體他方の産に比すれば非常に大に、味亦従つて他に超えて宜し(一升價金貳拾錢位)

●**名尾紙** 佐賀市場に集まる商品の一にして、佐賀郡松梅村名尾山に産出す。實に本縣製紙の起原をなし、元祿年間に始まり。筑後國溝口村僧日源より、漉造の法を傳へられたるに起れり。原料楮皮を使用す。名尾山附近に於ける一ケ年の産額は、約參万餘疋にして、其價額、亦約七万圓に上る、其の製品の重なるは、美濃紙、半紙、傘紙等にして、其の他に外國輸出向としては、「天狗紙」「コッヒー紙」「ナアキン用紙」等も製出す、其の販路は長崎、福岡、京都、大阪、東京地方、及び佐賀縣一圓にして、海外は主に韓清各地に大に輸出す。

●**煙** 佐賀の市場に出づる産物の一にして、有明海の沿岸、遠淺の泥瀉に産す。近年其の養殖、漸次隆盛に赴き、盛に海外(主に

●**實用 新案 進步 豆粕 削器**



縣下發賣店

營業種類
銅鎖鑰器物類
打又物大工道具
銅鎖鑰鉛錫地金
建築用諸金物

商 三 中島源藏商店

佐賀市柳町思案橋通り

電話(二四三番)

* 歐米流行肖像畫揮毫調進
 * 各國流行繪葉書並ニ附属品
 教育圖書掛圖額面各種
 佐賀七大偉人御肖像
 佐賀名勝葉書發行

佐賀縣立病院通新道

杉町菊水堂

支那、朝鮮に輸出し、將來大に有望品なり。

* * * * *

○佐賀の商業

●佐賀の繁昌 是東部に集まれり、従つて商店旅館等の如きも、亦東部に集まれり、今や電話電燈の設備整つて市内股賑の姿なり

●佐賀商人 是他方の商人の如く、巧辯、弄舌ならず、悪しく云へば無口なるを以て、無愛嬌なり、善く言へば朴訥にして淡泊なり、巧辯、弄舌せざる丈、安んじて信を置いて物を購ふべく、無愛嬌なる丈、深く愛すべき美德あるを認めずや。

●佐賀の旅館 比較的現金主義にあらず、他方の如く米搗虫の様に頭をペコ／＼下げ、チャホヤおせじを言はず、又花の如く待遇せず然れども誠實誠意以て、衷心より客として款待し、他方の如く黄金少ければ輕薄にする如き、黄金を款待すにあらず、客其の人を待遇するなり、従て懇切周到の注意と、懇懇丁寧、以て眞の待遇をなすものたるを諒し給へ。

●佐賀人 一體に尙武の風盛なるは、明治維新までは、鍋島武士葉隠武士として武道を錬りし故か、元來佐賀の地には、二百年一派の武風あり、これを葉隠武風と云ふ。葉隠武風とは葉隠集によりて、精神を錬り、武士道を研ぎ、これによりて以て人材輩出し、佐賀の武名を持せりき。其の餘波今日に及び、一般に尙武士的の

氣風存し、従て實業的方面の思想比較的に乏し、されどこの思想も、日を追ふて脱化するに至らん前述の如きを以て、風俗の如きも概ね質素にして、殊に學生の如きに至つては素朴の美風あるは他方人士の目新たなるどころならん。

商工家紹介

○野中烏犀圓 市内材木町一丁目野中萬太郎氏の薬店なり野中の烏犀圓と云へは兒童も之れを知れり以て名高きものたるを推知すべし此薬品は舊佐賀藩醫臣故西岡俊益、故久保三圭、故上村春菴の三先生の監製にして滋養強壯劑として効能卓越せり行用の紋の商標を登録しあり現代は源兵衛氏の十世孫なりと遠近より購求者満ち需用逐年増加の状況たり店主は藥劑師にして諸種藥品をも販賣し業務倍々盛大なり

○谷口鐵工場 谷口清八氏の獨力經營に係る谷口鐵工場は市内長瀬町に在り敷地約二千余坪事務所を外にして鑄物、木型、鍛、鐵、仕上、組立、製罐の各部に分れ及發電所と倉庫等あり使役鐵工四百數十名あり蜿蜒たる煤烟を漲らし晝夜に亘り運轉活動し其光景壯なり而して其製作品は鑛山機械水道鐵管美術鑄像を始め鐵道、船舶、製紙、精米機械、蒸氣々罐、原動器軍用鐵器等始んどあらゆる鐵器に及び一ヶ年の産額數十萬圓に上れり

谷口氏の初代清左衛門長光と云ふ人は鑄物術に長けて居たりしを以て龍造寺時代に早く御用鑄物師として召抱へられ爾來星換り物移り鍋島侯の代となりても依然御用鑄物師として連綿繼續し傍ら一般の鑄鐵業を營み明治の變革と共に其事業にも一大波動を受けしが塲主清八氏は時勢の赴く所を洞察し當時機械工業の如き全く顧みるものなきに於て大に工場を擴張したりしが世運は忽ち轉回して炭坑業各地に勃興せし結果機械の注文續々來り後年發展の緒を開きたりと

同工塲の手に於て鑄造せられ世に重視稱讚せられ居るものは寛永十四年鍋島家より寄進せられし英彦山神社の青銅大鳥居、明治三十四年に着手して三十七年に完成したりし元寇記念日蓮上人の銅像並びに恐れ多くも龜山天皇の御銅像、三十七八年戰役中大阪砲兵工廠の命により鑄造せし十五珊米臼砲破甲榴彈、下關市水道鐵管等では等は皆別に技術者なるものに由りて製造せられしにあらず塲主清八氏令息源一郎氏が自ら諸事擔任して造り上げたるものにして其結果の良好なること下關市より英國製を凌ぐとの證明を獲たりしと砲彈に一個の不合格品を出さざりしことに由りて知るべく又以て如何に優越せる製作力と熟練なる技術とを有せるかを見るべし加ふるに同父子の謹嚴着實にして親切謙遜なる塲主と職工との關係の圓滿なる他に見る可からざる美風なりと近年工場の業務専ら令息源一郎氏管掌益々奮勉しつゝありと云ふ

○大間吳服洋物店 市内蓮池町にあり吳服太物洋反物一式毛織物類及舶來雜貨各化粧品等を營業とす店主は大間清藏氏なり先年店舗を新築しデパートメントストア一式と爲し花客の觀覽と購求の便を計れり店主の正直なる息子及店員一同の勉強なるを以て店頭顧客の堪えざる狀況なり逐年繁昌の域に進みつゝあり

○丸木屋吳服店 は市内吳服町に在る老舗なり店前に美女の人形花客を招き物品の粧飾と陳列に工夫を凝らし例年六月と十月には新柄陳列會を開かる店主は山下卯助氏なり令息卯一氏専ら全

店務を管理し幾多の店員を指揮し花客に接する丁寧親切確實廉價以て能く江湖の信用を益々厚からしめ門前常に市を爲すに至る全店附近に丸木雜貨店を設く雜貨類一式を販賣しつゝあり益々業務繁昌の状況なり

○丸木屋分店 市内伊勢屋本町に在り本店同様確實廉價に販賣し業務逐年旺盛に赴きつゝあり店主は山下力之助氏なり

○玉川素麵製造所 は佐賀市岸川町秀島左平氏の製造に係る玉川素麵は製品佳良なるを以て世に好評を博し居れり令息春一郎氏最も斯業に熱心焦慮し製麵及製粉に要する器械器具を改良せんことに志し幾多の諸費を惜まず數年間あらゆる苦心を嘗め寢食を忘れて工夫を凝らし一指を失ふに至るも屈せず銳意其目的を達せんことに努ためる結果製粉のコネ器械を發明し本年製粉機を發明するに至れり之れが爲め製麵製粉上最も便利を得たるを以て製粉機は特許出願中なりと今や工場を改築して製品は完全にして益佳良となり隨て製造數量を増加するに至れり販路は九州各地韓國其他に及ぼし一ヶ年數十萬斤の産額にて業務益々旺盛に赴きつゝあり全家附近の女子は素麵の紙巻及仕上げ等に從事し好き内職を得つゝありと云ふべし

特に記すべきは春一郎氏が自家の精米製粉製麵に要する蒸氣を利用して製麵を乾燥する仕掛けなりとす之れが爲め霖雨沛然たる時季にも製麵に従事するを得ることなり此乾燥に就ては夙に特許を享けたき所存なりしと今は全国各地の製麵業者同家に視察に来るもの頻々たり歸郷して該乾燥法を摸倣するに至れるは遺憾なりと然れども一面より熟考すれば本邦製麵業者を補助し且つ斯業界に一進歩を促かし延ひて産業の發展に資したるものと云ふを得べし

○百六銀行 市内水ヶ江町松原社神苑前に在り明治十二年の創立にして百六國立銀行と稱し居たりし銀行條例改正に由り百六銀行と改稱し資本金を六拾萬圓に増し業務を擴張して一層確實親切以て顧客の便を計りつゝあり同行は本金庫の事務を取扱へり信用益々厚く業務年々盛大に赴けり頭取は中野致明氏支配人は吉田久太郎氏なり全行派出所は唐人町に在り出張所は諸富及鳥栖の兩地に設け在り

○佐運本店 は市内唐人町に在り運輸百般の取扱ひ方確實町隣にして迅速なり永年斯業に従事し經驗深く信用も厚し諸官衙御用達を爲し居れり業務盛大なり佐賀停車場前に商品場を設立し玩具雜貨、文具類其他日用品を陳列して勉強販賣す店主は大園治右工門氏なり

○佐賀器械製造所 は市内松原町馬賣馬場に在り所主野口健藏氏天賦の技能を有し明治十一年醫術機械の製作を創めしより益々精巧を究め舶來品を凌かんとするの勢あり近時我邦にて未だ製作普からざるエツキス光線器械自動ヘシオスタツト器、無線電信無線電話、自動光線、反射器等の發明の如き精妙巧緻を極むるを以て京都大學を始め各府縣の學校より注文あり進んで清韓地方に販路を擴張せり而してあらゆる機械の殆んど巧妙の作を爲さるものなし以て業務隆盛の域に進みつゝあり宜なる哉嘗て小松宮殿下に拜謁の許可を得及文部大臣より學界に功勞ありとの表頌状を受領したり今や合息貫一氏學術と技術とを研究し奮勵して以て嚴父の業を助けつゝあり

○旗崎商店 は市内長瀬町に在り酒釀造業たり傍ら洋酒類及食料品販賣を爲し店主仁三氏は栓拔器及米洗機を發明し販賣せらる又本縣酒造研究株式會社釀造に係る銘酒「御宴」及「赤松」を發賣し好評を博しつゝあり

○相原材木店 は市内唐人町に在り店主は相原常市氏なり氏は町寧にして商業は確實なるを以て大に信用を博し居れり常に電柱等の納品に従事し建築方一物の依頼に應ずる等物品潤澤縣下唐津

小城に支店を有し業務逐年盛運に向ひつゝあり

○清酒香風 は杵島郡錦江村字高町香月忠亮氏の釀造に係るものなり品質佳良にして釀造高大なり其名夙に高く各地品評會に於て受賞せらるゝこと多く販路逐年擴大せられ信用従つて増進し業務益々旺盛なり

○いごや呉服店 は市内吳服町に在り店前に盛裝せる婦人の人形は通行の人も吳服屋たるを知る店主古賀良輔氏業務に熱心勉勵し店前の粧飾商品の陳列に注意し春夏秋冬季節に従つて物品を撰擇し流行に後れざらんことに努む顧客に接する町寧にして愛嬌あり全店日増し繁昌の状況にして店頭客の絶間なし

○河内汲古堂 市内白山町郵便局隣りに在り佐賀縣元祖の書籍業にして内外書籍及雜誌等多少の注文品に拘らず迅速に調達するは同店の特色なり且つ店前の陳列に注意し確實勉強しつゝありと

○深川出張店 は當市馬賣馬場欄干橋側に在り内外向磁器製造を以て有名なる有田町深川忠次氏の出店にして宮内省御用燒第十二代目辻勝藏氏の代理店をも兼ねたれば其陳列品は世界有數の磁器たる肥前燒の精粹を集めたるものと云ふべく代價も本店同様毫も異なる事なければ一度同店を訪ふの旅客は日本の名産たる有田

磁器を容易に家苞にするの便あるべし

○牧川書店 は市内白山町佐賀郵便局の前にあり書籍樂器文房具等の商品を販賣し各學校の需用に應じつゝあり店主の愛嬌なる店員の勉強なる客足繁き有様なり

○永池商店 市内白山町永池幸吉氏商店とす和洋諸紙文具一式卸小賣を爲し業務逐年繁榮の域に進みつゝあり全店は物品の精撰價格確實廉價を主とし加ふるに店員一同熱心勉強と丁寧なる顧客の信用を増進し客足繁き狀況也従つて販路も大に擴張せられたり

○友田洋物店 は市内西魚町字八丁馬場にあり店主は友田徳一郎氏なり支店は門司市に設け業務倍々盛大に趣けり商品は貴婦人用小間物舶來雜貨化粧品等にして店前の粧飾商品の陳列に就て改善を計り店員一同の丁寧親切なる顧客増加の狀況を呈し居れり

○蒲原時計店 は市内白山町にあり店前の粧飾美麗なり店主は蒲原伊三郎氏なり各國時計並に貴金屬美術品卸小賣及指輪金銀盃其他貴金屬御好に應じ製作す物品精良にして確實業務益々盛昌なり各地に支店設置しありと云ふ

○彌富肥料商店 は市内唐人町彌富亮一氏商店なり全店は北海

道物産練粕及大豆粕の直輸入を取扱ひ業務盛大にして確實廉價にて販賣取引をなし江湖の信用厚く業務益々旺益の域に進みつゝありと云ふ

○荒木榮盛堂 は白山町に在り縣内一流の賣藥問屋にして活氣常に店頭に滿つ其榮盛五臟圓は効力著大を以て聞え販路益々擴大するを見る惟ふに確實新鮮の良藥を撰んで薄利に捌き誠意親切を主義とせる全店の前途は頗る多望なりと云ふべし

○古賀長商店 は市内吳服町郵便局の南隣りにあり新式の商店にして店飾りに注意しあり販賣品は貴金屬寶石指輪目鏡等なり店主の丁寧なる商品の確實なる業務日増しに繁昌の狀況なり

○森商店 は市内水ヶ江町片田江通りに在り劍術柔術用一切の道具及附屬品を販賣し且つ各學校體操用器具一式を販賣し又裁縫部に於ては諸官衙學校の窓掛類其他の受負及生徒用シャツズボン下並運動用品各種を調進し廉價に發賣しつゝあり店主は森誠輔氏にして如才なく花客を待らいつゝあり

○野村商店 本店は小城郡小城町にあり支店は市内白山町にあり店主は野村竹次郎氏なり帝國製糸株式會社製品及加富登麥酒株

式會社製品各々佐賀縣一手販賣の側ら官製煙草元賣捌官製鹽元賣捌業に熱心従事しつゝあり日進月歩業務旺盛の域に進みつゝあり

○西村救命藥館 は市内水ヶ江町片田江にあり信用ある藥種賣藥卸小賣商にして業務を擴張し藥劑師龜川秀一氏主任となり藥律の主旨に因り藥品々質に注意し純良精撰の藥品を販賣し患者の便宜を計り藥局を開設し確實廉價にて調劑の依頼に應しつゝあれば業務旺盛に趣けり

○中原陶器店 は市内松原町警察署前にあり全國各産陶器を集め熱心勉強して廉價に販賣し陳列上に工夫し觀覽の便に供し町噺親切以て顧客に接しつゝあり店主は中原芳五郎氏なり

○佐賀市の醬油 市内高木町古澤和平太、長瀬町高岸武平、八戸町古川猪八、水ヶ江町宮地甚六、唐人町佐賀醬油會社、紺屋町松本嘉次郎の醸造に係る醬油は芳香佳良色澤鮮明にして優秀なり以て江湖の稱讚を博し逐年醸造高を増加し販路益々擴張せられつゝあり各共進會品評會等に出品し常に好地位を占めつゝありと

○鶴澤鉄工所 は市内點合町に在り特許品鶴澤式製麵機並に諸機械の製造に従事しつゝあり製麵機は精巧にして使用上の簡便を計りて製作しあり江湖の稱讚するところなり博覽會共進會等に出

品して實地運轉を施して觀覽に供し好評を博したり其授賞せられたること數回にして各地の注文増加し販路倍々擴張せられ製麵界に貢献せらるゝもの多大なり

○大坪惇信堂 市内吳服町に在る書肆にして佐賀縣國定教科書特約販賣所東洋樂器製造會社佐賀縣特約販賣所たり且つ内外書籍新聞雜誌佐賀名所繪葉書等大賣捌を爲し業務年々旺盛に赴きつゝあり店主の着實町噺なる價格の確實なる顧客の信用を厚ふせり店主は大坪萬六氏なり

○上林茶店 は市内吳服町にあり宇治茶嬉野茶薰香煎茶器茶の湯道具一式販賣を爲し品は精撰し確實なり店主は岡本佐右衛門氏なり

○八谷商店 市内赤松町城内に在り洋服仕立物類一切調進の業に従事し本縣下壹圓九州各縣各官衙の御用を受け其他受負業に従事し大に信用を博し業務逐年隆昌の狀況なり傍ら製綱業に従事し居れり

○香田時計店 は市内西魚町八丁馬場にあり時計及目鏡類の精良品を撰み確實廉價を主とし販賣す並に保險附修繕の業に従事し勉強なる商店なり店主は香田官一郎氏なり

○高取分店 市内蓮池町に在り高取禮吉氏店主たり本店は點合町高取元吉氏なり全分店の製藥はヘルツ飴とす外藥種類一切を確實廉價に販賣し業務益々頻繁を呈しつゝあり

○竹下商店 は市内元町にあり日の出ビスケット製造販賣業にして指月堂と呼べり販路漸次他府縣へ擴張しつゝあり尙美術鑑詰砂糖漬類發賣し洋菓子卸商なり

○和洋紙文具及活版印刷業 は市内西魚町八丁馬場釜屋事小部松一郎氏の業務たり販賣品は確實低廉なり印刷物は迅速にして町隣なり業務逐事隆盛の狀況なり

○啓進社 教育品一切の研究販賣所なり高等師範學校後藤和田高橋三教授の考案に成る理科器械標本圖畫教育會撰定品並ニ教育專門家が裨益ありと認むる優良文房具を取扱ひ更に品價を吟味し購買者の便宜を圖る等超然教育者の後援たる實を擧げんと力む他に見らざる文明的店舗なり

○文賞堂 は市内元町に在り諸官衙御用を受け居れり店主は宮崎和吉氏にして貴金屬指輪水晶雅俗印外一切の印判彫刻依頼に應じつゝあり又賣藥製丸をも販賣し居れり

○中島金物店 は市内柳町字思案橋に在り店主は中島源藏氏なり支店を元町に設置し業務益々擴張しつゝあり店主の着實なる商品の確實なる一般の好評を享けつゝありと云ふ

○杉町菊水堂 は市内水ヶ江町新道通りに在りて佐賀名勝葉書及各種の繪葉書歐米流行肖像畫を揮毫調進し教育圖書並に掛圖額面等大販賣を爲し非常に勉強しつゝあり

○福紗屋呉服店 は市内白山町にあり呉服太物一切を販賣し確實廉價正札附なり店主は江口勘次氏なり益々花客の信用を享けつゝあり

○菓子商鶴屋 は市内西魚町八丁馬場に在り名代の菓子屋なり製品佳良にして陸軍御用達に従事しつゝあり店主は堤善吉氏なり

○小松屋洋品店 は市内元町中程に在り和洋雜貨店にして廉價に販賣しつゝあり店主は本野鐵一郎氏にして町隣親切以て顧客に接しつゝあり

○古賀商店 は市内水ヶ江町片田江に在り疊製造販賣にして職工多數雇入れ勉強しつゝあり全店は藁蒲團も製造し廉價に販賣すと店主は古賀虎吉氏なり